



BigFix
BigFix 11 Insights 操作ガイド

Special notice

Before using this information and the product it supports, read the information in Notices.

Edition notice

This edition applies to BigFix version 11 and to all subsequent releases and modifications until otherwise indicated in new editions.

Contents

Chapter 1. バージョン履歴	5
Chapter 2. 概要	6
Chapter 3. データ・ソースとサイトの操作	7
Chapter 4. リンク項目の操作	14
Chapter 5. ETL のスケジュール	16
Chapter 6. アクティビティ履歴での作業	22
Chapter 7. WebUI の更新	26
Chapter 8. Power BI レポート	29
Chapter 9. Tableau ワークブック	34
Chapter 10. カスタム属性の追加および編集	42
Chapter 11. Insights スキーマ	49
Chapter 12. ベスト・プラクティス	85
Chapter 13. BigFix Insights のトラブルシューティング	87
Chapter 14. BigFix Insights 変更ログ	93

Chapter 1. バージョン履歴

日付	バージョン	Note
2021 年 11 月 30 日	1.0	初期リリース

Chapter 2. 概要

BigFix Insights はすべての BigFix データを単一のデータ・ウェアハウスに統合するのに役立つアプリケーション主導型の抽出、変換、ロード (ETL) です。

Bigfix Insights 操作ガイドは、Bigfix Insights 環境での日常的な操作を支援するためのリファレンスです。このガイドを最大限に活用するにあたって、『Bigfix Insights 入門ガイド』で必要なアクティビティを実行し、機能する Bigfix Insights 環境を実装していることを想定しています。

本ガイドで説明する項目の多くは、実際に Bigfix マスター・オペレーターによって実行され、組織内で職務が分けられている場合は Bigfix Insights 管理者によって実行されます。

Chapter 3. データ・ソースとサイトの操作

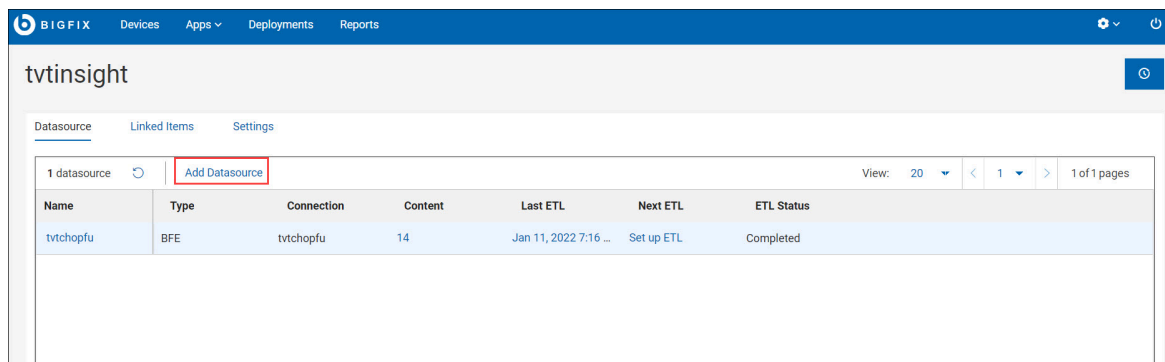
このセクションでは、BigFix 10 Insights でのデータ・ソースの追加、削除、および編集について詳しく説明します。データ・ソースとは、Fixlet、分析、コンピューター、サイト、結果を格納する既存の BigFix Enterprise (BFEnterprise) データベースを指し、Insights はここからのデータを使用して組織全体で重要なデータを表示します。複数のデータ・ソースを Insights に追加し、複数の BigFix Enterprise Server にまたがるエンドポイントのデータを統合して相関付けることができます。各データ・ソースで、個別のサイトを追加または除外して BigFix Insights で使用できます。複数のデータ・ソース間で一致するサイトは、Insights でリンク項目として表示されます。BigFix の各デプロイメントには、Insights で使用する可能性のあるデータ・ソースを区別するために内部的に使用する一意の識別子があります。この識別子は ActionsiteEpoch です。現在、BFEnterprise のインストールごとに 1 つのデータ・ソースをサポートしています。

データ・ソースの追加

「データ・ソース」セクションは、BigFix データ・ソースの管理に使用されます。このビューで、データ・ソースの接続と設定を追加、削除、編集できます。BigFix Insights を設定すると、**Insights** サーバーのホーム・ページが表示されます。

データ・ソースを追加するには、次のステップを行います。

1. Insights アプリケーション内で、「データ・ソース」タブに移動します。



2. 「データ・ソースの追加」をクリックします「データ・ソース接続」と「詳細な構成」の詳細が表示された、次のような「BigFix Insights の設定」ページが表示されます。

BigFix 11 Insights Setup Interface

Left Sidebar: Bigfix Insights Server, Add Datasource, Import Sites

Main Section: Setup BigFix Insights

Datasource Connection

Datasource Alias*

Type: ☒ BigFix Enterprise

Hostname or IP Address* Port* 1433

Username* Password*

Advanced Configuration

Database Instance Name Encryption Enabled Yes No

Database BFEnterprise

Buttons: Cancel, Next

3. 「データ・ソース接続」の詳細と「データベースのインスタンス名」を入力します。これは、データ・ソースの場所とデータ・ソースとの認証方法を定義します。データ・ソースに接続するには、SQL 認証を使用する必要があります。

**Note:**

アスタリスク (*) の付いたデータ入力フィールドは必須です。

4. 「次へ」をクリックします。「サイト」ページには、このデータ・ソースからインポートできる外部サイトのリストが表示されます。このワークフローでは、データ・ソースのインポートにサイトを含めるか除外するかを選択できます。

**Note:**

「サイト」ページには、ユーザーがサイトを含めるか除外するかを選択するためのダイアログ・ボックスが用意されています。レポートする目的のサイトのみ追加する必要があります。例えば、チェックリスト・サイトやパッチ・コンテンツ・サイトはレポートする対象となる場合がありますが、リモート・コントロール・コンテンツ・サイトでは、目的のレポートをサポートするコンテンツは提供されません。これは各自の判断に任されています。しかし、一般に、追加されるサイトが増えるほど、取得するデータが増え、ETL のプロセスに必要な時間も長くなります。



インポートするサイトを追加したら、サイトを削除することはできません (これは、Insights アプリケーションの履歴の整合性を保証することです)。一般的に、最初はインポートするサイトを最小限にし、時間とリソースが許せば追加することを検討します。

Sites

Datasource: **Bigfix Docs Datasource1**

Specify the site(s) you want to import from the datasource

5 Sites

Site Names	Devices	Content	Type
<input type="checkbox"/> Patches for Mac OS X	0	482	External
<input type="checkbox"/> Patches for RHEL 7	0	1904	External
<input type="checkbox"/> Patches for RHEL 8	0	5	External
<input type="checkbox"/> Patches for Solaris	1	1646	External
<input type="checkbox"/> Patches for Windows	1	16444	External

Cancel Save

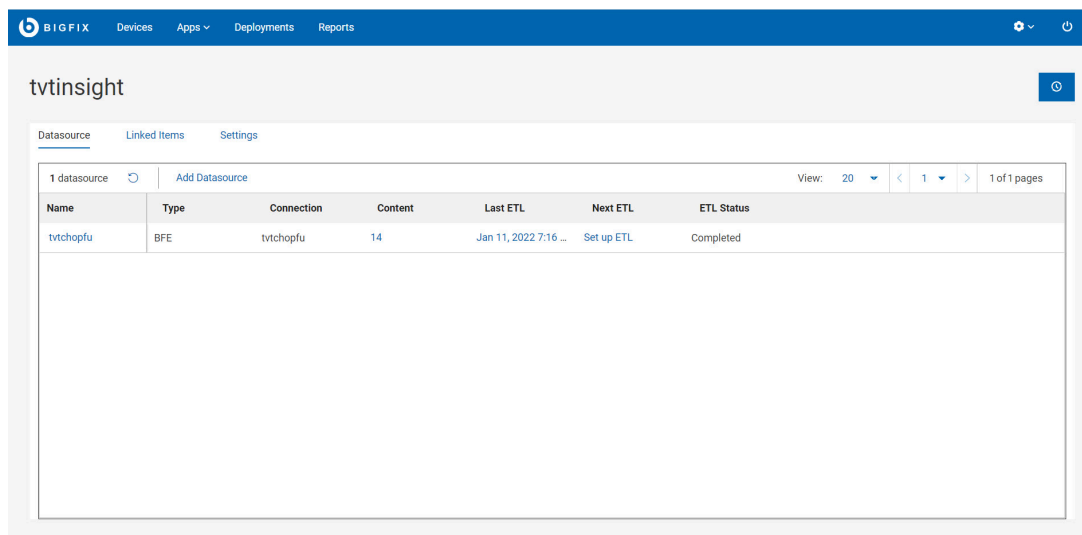
- データ・ソースからインポートするサイトを含める場合はチェック・ボックスにチェックを入れ、除外する場合はチェックを外します。
 - いかなるデータ・ソースにもインポートされたことのないサイトをインポートする場合、そのサイトは現在の唯一のコンテンツの表示となるため、「プライマリー」サイトとして設定されます。
 - プライマリー・データ・ソースは、表示されたコンテンツ (Fixlet、サイト、タスク、分析など) が、相互に関連付けられる単一のレコードとして使用されるデータ・ソースです。プライマリー・サイトは除外できません。サイトのプライマリー・データ・ソースを変更する方法については、「[リンク項目の操作](#)」をご覧ください。
- 「保存」をクリックします。

これでデータ・ソースを追加できました。新しく追加されたデータ・ソースは、「詳細」ページの「データ・ソース」タブで確認できます。含まれるサイトの数は、「サイト」に表示されます。

既存のデータ・ソースの表示

Insights アプリケーション内で、「データ・ソース」タブに移動します。現在のデータ・ソース定義が表示されます。

Figure 1. 既存のデータ・ソースの表示



The screenshot shows the 'DASOURCE' tab in the BigFix Insights interface. The table lists the following data source:

Name	Type	Connection	Content	Last ETL	Next ETL	ETL Status
tvthopfu	BFE	tvthopfu	14	Jan 11, 2022 7:16 ...	Set up ETL	Completed

データ・ソースでのサイトの編集

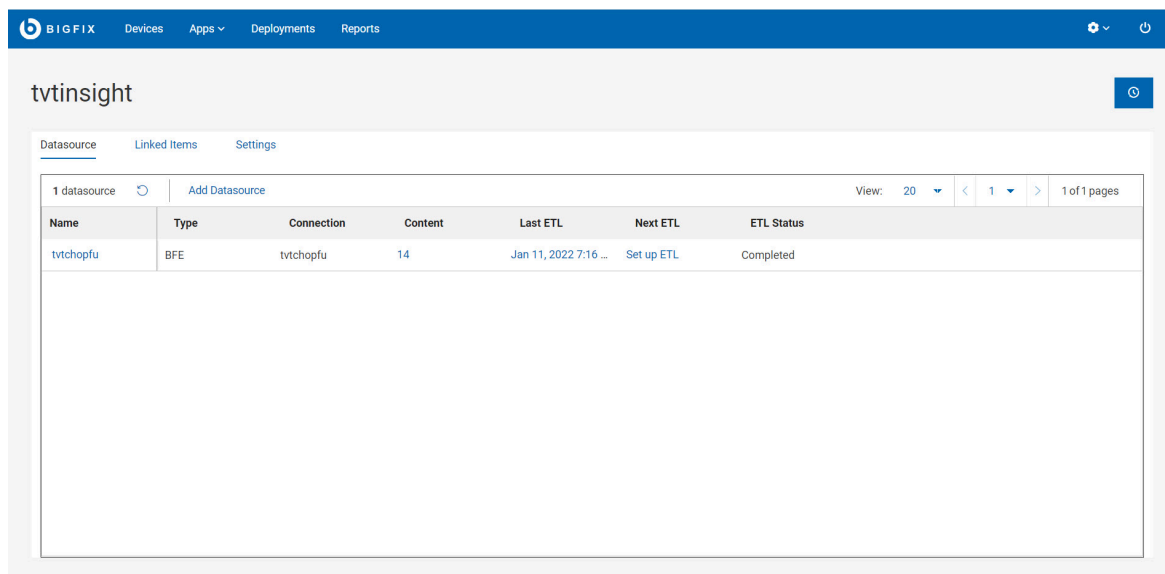
1. 「BigFix Insights の詳細」ページの「データ・ソース」タブをクリックします。



Note:

「ETL の状況」が「実行中」の場合はデータ・ソースでサイトを編集できません。

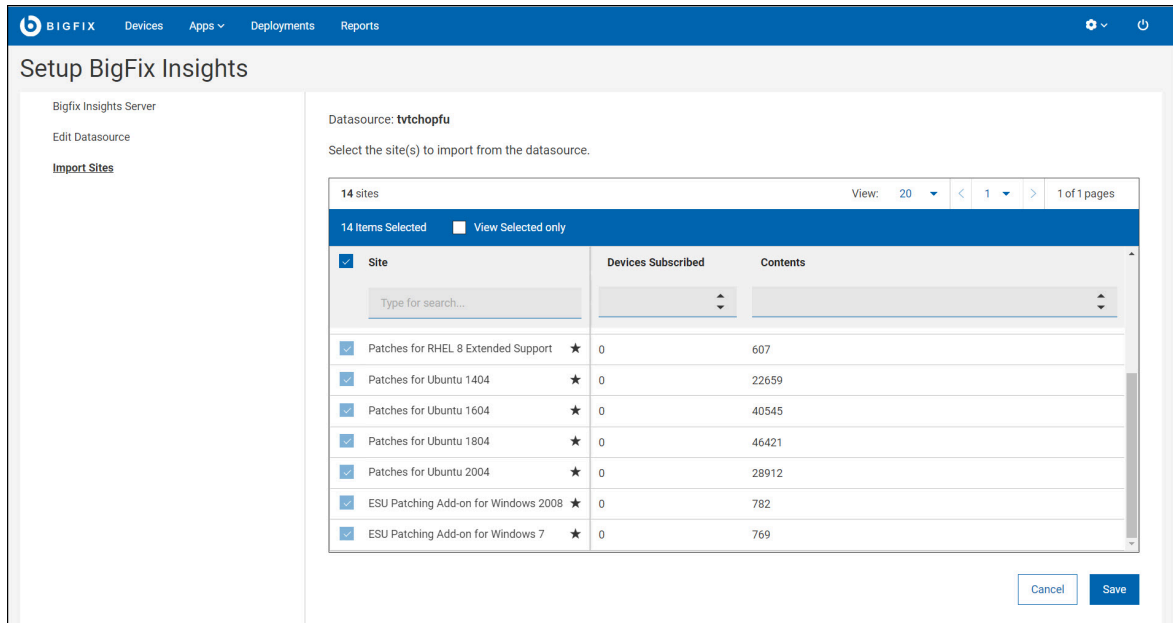
2. インポートしたサイトを変更するには、目的のデータ・ソースの「コンテンツ」リンクをクリックします。サイト・リンクは、サイト列内に数値ハイパーリンクとして表示されます。この値は、指定されたデータ・ソースからインポートされるサイトの数を表します。



The screenshot shows the 'DASOURCE' tab in the BigFix Insights interface. The table lists the following data source:

Name	Type	Connection	Content	Last ETL	Next ETL	ETL Status
tvthopfu	BFE	tvthopfu	14	Jan 11, 2022 7:16 ...	Set up ETL	Completed

3. データ・ソース内のサイトが表示されます。これは、すべてのサイトが指定のデータ・ソースからインポート可能であることを表します。



Note:

サイト名の前の星印は「プライマリー」サイトであることを示します。プライマリー・サイトとして定義されているサイトは削除できません。プライマリー・サイトは、他のデータベースが関連付けられているサイトを表します。削除する前に、プライマリー・サイトを同じサイトの別のデータベースに再割り当てする必要があります。



Note:

新しいサイトが追加されると、シーケンスは 0 にリセットされます。ETL プロセスは増分のままですが、シーケンス 0 からデータの取得を開始し、upsert 操作を実行します。その結果、追加のディスク・スペースが必要となり、後続の ETL プロセスの期間が延長されます。

4. チェック・ボックスを入れるか外して、インポートに含めるまたは除外するサイトを指定します。
5. 「保存」をクリックします。

これでデータ・ソースでインポートされたサイトが更新されました。

データ・ソースの編集

既存のデータ・ソースを編集するには、次のステップを行います。

1. Insights アプリ内で、「データ・ソース」タブに移動します。作成したすべてのデータ・ソースがリストされます。

**Note:**

「ETL の状況」が「実行中」の場合はデータ・ソースでサイトを編集できません。

2. 編集するデータ・ソースの「別名」をクリックします。

3. 必要に応じてフィールドを編集します。
4. 「次へ」 をクリックします。
データ・ソースが更新されます。

データ・ソースの削除

このタスクではデータ・ソースを削除する方法を説明します。

**Note:**

- 複数のプライマリー・サイトがある場合は、データ・ソースは削除できません。サイトのプライマリー・データ・ソースを変更するには、「[リンク項目の操作](#)」をご覧ください。
- 「ETL の状況」が「実行中」の場合はデータ・ソースでサイトを編集できません。

1. Insights アプリケーション内で、「データ・ソース」タブに移動します。
2. 削除するデータ・ソースの「データ・ソースのエイリアス」をクリックします。
「データ・ソースの編集」ページが表示されます。
3. 「データ・ソースの削除」をクリックします
「データ・ソースの削除」メッセージ・ボックスが表示されます。

Delete Datasource

Historical data will still be available in the BigFix Insights database, but it will not appear in any Reports. Are you sure you want to continue?

CancelDelete

4. 「削除」をクリックしてデータ・ソースを削除します。

Chapter 4. リンク項目の操作

BigFix 10 Insights のリンク項目を参照してください。

リンク項目は、BigFix Insights での重複を防ぐために、複数のデータ・ソース間の同じコンテンツのマッピングを示します。サイトの場合は、異なるデータ・ソース間の特定のサイトが同じであり、サイト間で同じコンテンツが存在する可能性があることが示されます。データ・ソースの詳細については、「[データ・ソースとサイトの操作](#)」をご覧ください。

リンク項目内のマッピングでは、「プライマリー」として設定されたデータ・ソースが常に 1 つ存在します。プライマリー・リンク項目とは、表示されるオブジェクト (外部サイトなど) が相互に関連付けられた 1 つのレコードとして使用されるデータ・ソースです。プライマリー・リンク項目は、オブジェクトが表示されたマッピングされたコンテンツと、コンテンツの表示として選択されたレコードとの間に相違がある場合に決定します。デフォルトでは、表示されたオブジェクトをインポートする最初のデータ・ソースがプライマリーとして設定されます。「リンク項目」タブで、表示されたオブジェクトのプライマリー・データ・ソースを変更できます。

例:

次の例ではプライマリー・データ・ソースの BigFix Insights への影響について説明します。

2 つのデータ・ソース、Datasource West と Datasource East があり、同じ外部サイト BES Support があるとします。Datasource East では BES Support に少し古いバージョンのサイトがあり、20 個の Fixlet があります。Datasource West では、BES Support に最新バージョンのサイトがあり、30 個の Fixlet があります。両方のデータ・ソース間に、同じ 20 個の Fixlet があります。

Datasource West の BES Support がプライマリー・サイトとして設定され、ETL が実行されている場合、BigFix Insights はリンクされたサイト間で 20 個の共有 Fixlet をマッピングし、Datasource West の BES Support 固有の Fixlet 10 個をすべて追加するため、BigFix Insights には 50 個ではなく合計 30 個の Fixlet が表示されます。これとは逆に、Datasource East の BES Support が最初にプライマリーとして設定されている場合、BigFix Insights では、データ・ソース間で表示される共有 Fixlet は 20 個のみになります。

ETL の実行後にプライマリー・データ・ソースを Datasource East から Datasource West に切り替えると、Datasource West のすべての一意の BES Support の Fixlet が次の ETL に追加されるため、30 個の Fixlet が表示されます。ETL の実行後にプライマリー・データ・ソースを Datasource West から Datasource East に切り替えた場合でも、BigFix Insights には合計 30 個の Fixlet が表示されます。ただし、更新されるのは 20 個の共有 Fixlet のみで、Datasource West の 10 個の固有の BES Support の Fixlet は更新されません。

「リンク項目の概要」に移動するには、BigFix Insights の詳細ページの「リンク項目」タブをクリックします。BigFix Insights では、データ・ソースにあるサイトのリンク項目を自動的に作成します。

「リンク項目の概要」には次の列が含まれます。

Table 1. リンク項目の概要

列名	説明 (Description)
リンク・エイリアス	リンク項目の別名です。デフォルトはサイト名です。
タイプ	データ・ソースに含まれるサイトのタイプ (内部または外部)
データ・ソース	このリンク項目のデータ・ソースの数。
プライマリー	リンク項目のプライマリー・データ・ソース。
最終更新日時	リンク項目のプロパティが最後に更新されたタイムライン。

リンク項目の編集

リンクの別名を編集し、リンク項目のプライマリー・データ・ソースを更新するには、次のステップを行います。

1. Insights アプリ内で、「リンク項目」タブに移動します。
2. 「リンクの別名」列の項目をクリックします。
3. 「リンクの別名」の名前を編集します。
4. リストから「プライマリー・リンク・データ・ソース」を選択します。
プライマリー・リンク・データ・ソースは、プライマリー・データ・ソース以外のすべてのコンテンツのマッピングに使用されるため、データの優先ソースであるデータ・ソースを選択します。
5. 「保存」をクリックします。

Chapter 5. ETL のスケジュール

ETL (抽出、変換、読み込み) プロセスでは、データ・ソースからデータを抽出して、Insights のデータベースに保存します。ETL プロセスは時間とリソースを大幅に消費する可能性があるため、カスタマイズ可能なスケジュールで実行して障害を最小限に抑えます。BigFix Insights で、ETL を日ごと、週ごと、月ごとにスケジュールし、データ・ソースの ETL の履歴とすべてのデータ・ソースの ETL 設定を指定することもできます。

ETL の設定



Note:

デプロイメント中の中断を最小限に抑えるために、容量のガイドラインに記載されている推奨事項に従ってください。

Insights で ETL をスケジュールするには、次のステップを実行します。

1. Insights で「データ・ソース」タブに移動します。

My Insights						
Datasources Linked Items Settings						
1 Datasource						
Alias	Type	Hostname/IP	Sites	Last ETL	Next ETL	ETL Status
My Datasource	BigFix Enterprise	9.876.543.21	3	N/A	Set up ETL	N/A

2. ETL をスケジュールするデータ・ソースで「ETL の設定」をクリックします。
ETL スケジューラーが次のように表示されます。

ETL Schedule

Datasource tvtchopfu
Connection tvtchopfu

Schedule Criteria

This event repeats

Daily

Time (24-hour clock)

17:30 Client Time UTC

i Next Scheduled ETL

UTC Time: January 10 2022 01:30 AM (UTC)
Client Time: January 09 2022 05:30 PM (UTC -08:00)

Active ETL (in UTC) across all datasources

● < 6 ETL

●● 6 - 10 ETL

●●● > 10 ETL

< Jan 2022 >

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
01	02	03	04	05	06	
07	08	09	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	

**Note:**

「クライアント時刻」は、データ・ソース上の時刻を指します。カレンダーの丸で囲まれた日付は、現在の日付を示します。

ETL カレンダーの日付には、緑色、青色、赤色のドットが表示されます。

- 青: 当日予定されている ETL が 6 個未満であることを示します。
- 緑色: 当日予定されている ETL が 6 ~ 10 個あることを示します。
- 赤色: 当日予定されている ETL が 10 個以上あることを示します。

3. ETL を実行する頻度を選択し、他のフィールドに値を入力します。

**Note:**

- ETL を今すぐ実行するには、「ETL を今すぐキューに格納」をクリックします。別の ETL が進行中の場合、「ETL を今すぐキューに格納」をクリックすると、ETL がキューに追加されます。
- 特定のデータ・ソースでは、スケジュールされた ETL が実行される予定のときに「ETL を今すぐキューに格納」によって開始された ETL が実行されている場合、スケジュールされた ETL はスキップされ、次にスケジュールされた ETL 時刻に実行されます。

4. ETL を実行する時刻を選択します。時間をクリックすると変更できます。

5. 「保存」をクリックします。

これで、Insights で ETL が正常にスケジュールされました。

「Insights の詳細」ページの「次の ETL」列から次の ETL イベントを表示できます。

tvtnsight						
<div> Datasource Linked Items Settings </div>						
1 datasource		Add Datasource		View: 20 < 1 > 1 of 1 pages		
Name	Type	Connection	Content	Last ETL	Next ETL	ETL Status
tvthopfu	BFE	tvthopfu	3	Nov 21, 2021 12:2...	Set up ETL	Completed

ETL の再スケジュール

ETL を再スケジュールするには、以下のステップを実行します。

1. 「データ・ソース」タブに移動します。
2. ETL スケジュールを編集するデータ・ソースの「次の ETL」列の日付をクリックします。

3. 必要に応じてフィールドを編集します。

4. 「保存」をクリックします。

データ・ソースの「次の ETL」列が、更新されたスケジュールで更新されます。



Note:

「ETL 状況」が「実行中」の場合は、ETL スケジュールを編集できません。

ETL 履歴

「Insights の詳細」ページ（「データ・ソース」タブ）の「前回の ETL」列をクリックすると、ETL 履歴を表示できます。履歴に、選択した ETL の完了した実行内容がすべて表示されます。カレンダーの丸で囲まれた日付は現在の日付を示し、強調表示されているすべての日付は ETL が実行された日付です。



Note:

ETL が正常に実行されると、ETL 履歴を表示できます。

その日に実行された ETL の所要時間、状況、開始時刻、終了時刻を表示するには、ETL 履歴カレンダーで強調表示されている日付をクリックします。

「前回成功した ETL」フィールドと「次の ETL」フィールドを最新の状態に更新するには、「更新」アイコンをクリックします。「次の ETL」リンクをクリックすると、そのデータ・ソースの ETL スケジューラーが表示されます。

ETL Schedule

Datasource
Connection

tvthopfu
tvthopfu

Schedule Criteria

This event repeats

Daily

Time (24-hour clock)

17:30

Client Time

UTC

Next Scheduled ETL

UTC Time: January 10 2022 01:30 AM (UTC)

Client Time: January 09 2022 05:30 PM (UTC -08:00)

Active ETL (in UTC) across all datasources

●

< 6 ETL

●●

6 - 10 ETL

●●●

> 10 ETL

< Jan 2022 >

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
01	02	03	04	05	06	
07	08	09	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	

Live ETL ページへのアクセス

このタスクには、アクティブな BFE ETL プロセスを追跡するための Live ETL フィード・ ページへのアクセスが含まれます。主な目的は、ETL の問題のデバッグを支援し、進行中の ETL 操作の進捗を監視することです。

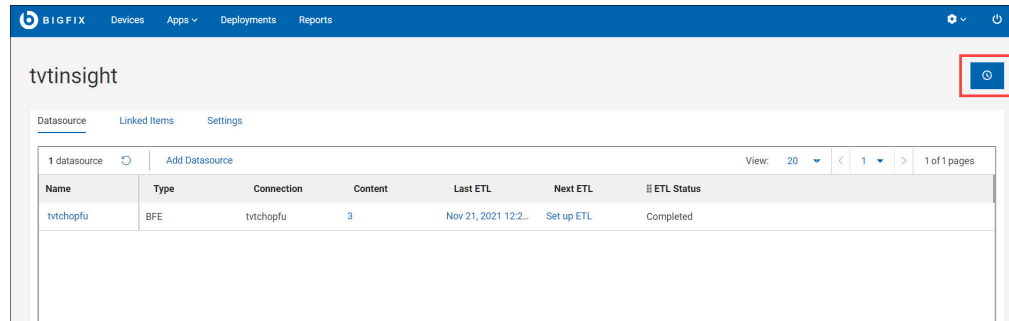
Live ETL フィード・ ページには URL 経由でのみ直接アクセスでき、WebUI で Insights にログインした後にアクセス可能になります。このページを表示する直接リンクまたはボタンはありません。

Live ETL フィード・ ページにアクセスするには、Web ブラウザーを開いて URL 「https://<webui_server>/insights/live」を入力します。

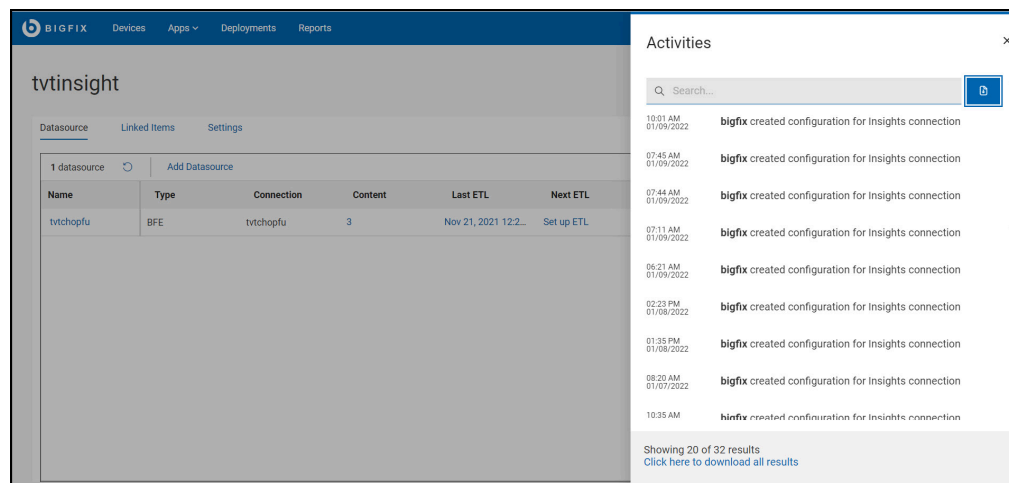
Chapter 6. アクティビティー履歴での作業

このトピックでは、アクティビティー履歴を表示してログをエクスポートする方法について説明します。

1. Insights アプリ内で、「データ・ソース」タブに移動します。
2. 歯車アイコンの下にある「アクティビティー」アイコンをクリックします。



「アクティビティー」ウィンドウに、Insights によって追跡されたすべてのアクティビティーのログと、そのタイム・スタンプが UTC 形式で表示されます。



Note:

データ・ソースを削除すると、データ・ソースに関連するすべてのアクティビティーは読み取り専用モードになり、また、データ・ソースにリンクできなくなります。

3. 多数のアクションを実行したり、特定の項目の詳細を確認するには、ログ・リストのハイパーリンクをクリックします。
次のアクションが可能です。

- ETL スケジュール - データ・ソースの ETL スケジュールを開きます
- サイト - データ・ソースのサイト・ページを開きます
- データ・ソースの別名 - データ・ソースの編集ページを開きます
- リンク項目の別名 - リンクされた項目の編集ページを開きます
- **BigFix Insights** の別名 - BigFix Insights 接続の詳細ページを開きます

「アクティビティ」ウィンドウの項目をフィルタリングするには、「検索」オプションを使用します。


4. 結果をエクスポートするには、検索バーの横にある「CSV にエクスポート」をクリックします。
「アクティビティ」ウィンドウの下にある「こちらをクリックしてすべての結果をダウンロード」をクリックして結果をエクスポートすることもできます。




Note:

このオプションは、20 件以上の検索結果がある場合にのみ表示されます。

Activities





3:13:49 pm
03/18/2020

santhosh_s updated [sites](#) for datasource [BFI datasource 17](#)

5:41:23 pm
03/17/2020

santhosh_s updated [sites](#) for datasource [BFI datasource 17](#)

5:41:21 pm
03/17/2020

santhosh_s created datasource [BFI datasource 17](#)

12:32:55 pm
03/16/2020

santhosh_s deleted datasource [Bigfix Docs Datasource3](#)

12:32:43 pm
03/16/2020

santhosh_s deleted datasource [Bigfix Docs Datasource2](#)

12:24:53 pm
03/16/2020

santhosh_s deleted datasource [BFD Datasource](#)

10:47:31 am
03/16/2020

santhosh_s updated configuration for datasource [Bigfix Docs Datasource1](#)

10:46:26 am
03/16/2020

santhosh_s updated configuration for datasource [Bigfix Docs Datasource2](#)

10:45:44 am
03/16/2020

santhosh_s updated [sites](#) for datasource [BFD Datasource](#)

santhosh_s created datasource [BFD Datasource](#)

Showing 20 of 28 results

[Click here to download all results](#)

Chapter 7. WebUI の更新

BigFix Insights WebUI アプリケーションを更新する方法について説明します。

BigFix Insights の更新手順は、WebUI アプリケーションの更新によって異なります。

以下のステップを実行して、BigFix Insights WebUI アプリケーションを更新します。

1. WebUI の「アプリケーションの更新」ページに移動します。



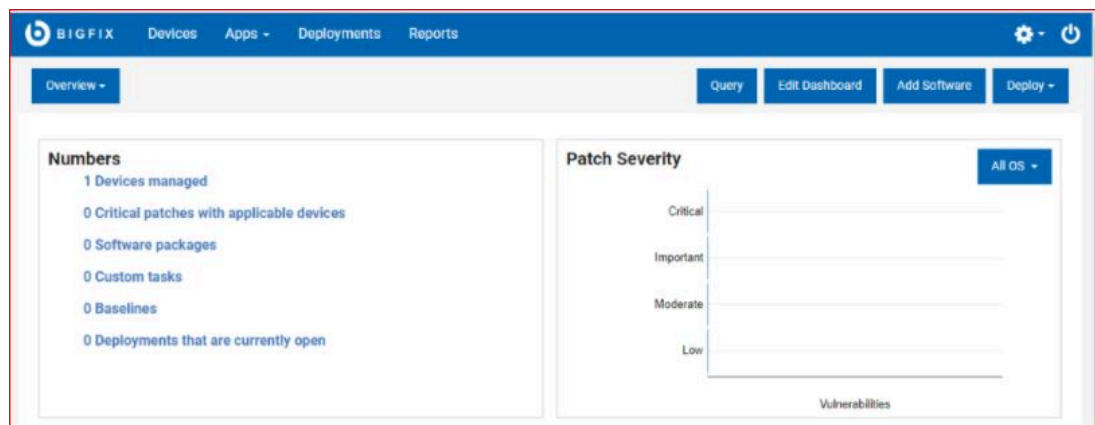
Note:

マスター・オペレーターの認証情報が必要です。

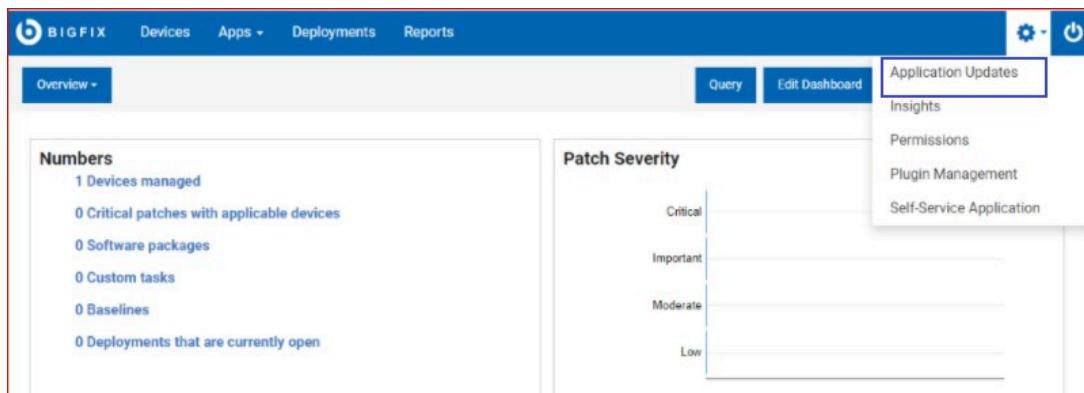
WebUI の「アプリケーションの更新」ページに移動するには、以下のようにします。

- a. マスター・オペレーター資格情報を使用して WebUI にログインします。

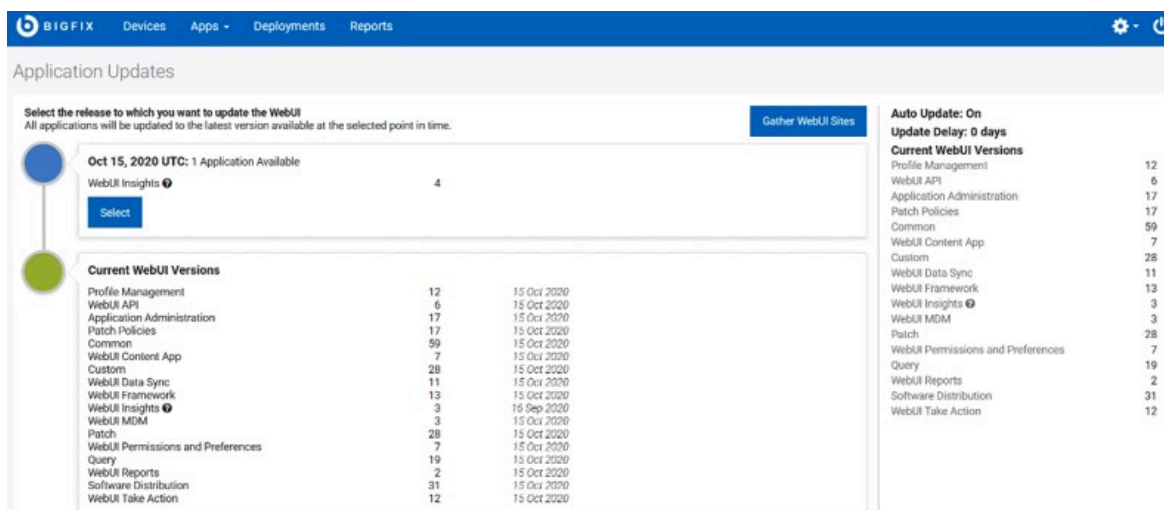
WebUI のホーム・ページが表示されます。



- b. ナビゲーション・バーの歯車アイコンをクリックし、「アプリケーションの更新」を選択します。



「アプリケーションの更新」ページが表示されます。



「アプリケーションの更新」ページに、使用可能なアプリケーションの更新が通知されます。更新通知に記載されている使用可能な更新のバージョン番号は、「現在の WebUI バージョン」ページに表示されている現在の WebUI バージョンと異なります (それより高くなっています)。

2. 「選択」をクリックします。

Application Updates

Select the release to which you want to update the WebUI
All applications will be updated to the latest version available at the selected point in time.

Oct 15, 2020 UTC: 1 Application Available

WebUI Insights 4

Select

Current WebUI Versions

Application	Version	Update Date
Profile Management	12	15 Oct 2020
WebUI API	6	15 Oct 2020
Application Administration	17	15 Oct 2020
Patch Policies	17	15 Oct 2020
Common	59	15 Oct 2020
WebUI Content App	7	15 Oct 2020
Custom	28	15 Oct 2020
WebUI Data Sync	11	15 Oct 2020
WebUI Framework	13	15 Oct 2020
WebUI Insights	3	15 Sep 2020
WebUI MDM	3	15 Oct 2020
Patch	28	15 Oct 2020
WebUI Permissions and Preferences	7	15 Oct 2020
Query	19	15 Oct 2020
WebUI Reports	2	15 Oct 2020
Software Distribution	31	15 Oct 2020
WebUI Take Action	12	15 Oct 2020

Auto Update: On
Update Delay: 0 days

Current WebUI Versions

Application	Version
Profile Management	12
WebUI API	6
Application Administration	17
Patch Policies	17
Common	59
WebUI Content App	7
Custom	28
WebUI Data Sync	11
WebUI Framework	13
WebUI Insights	3
WebUI MDM	3
Patch	28
WebUI Permissions and Preferences	7
Query	19
WebUI Reports	2
Software Distribution	31
WebUI Take Action	12

「選択した更新」ダイアログが開きます。

3. 「今すぐ更新」をクリックして更新を確認するか、「キャンセル」をクリックして更新を終了します。

Selected Updates

The following applications will be updated to the indicated versions:

WebUI Insights 4

The update can take several minutes. During that time the WebUI can still be used.

Cancel Update Now

更新が開始され、バックグラウンドで完了します。更新中に現在の WebUI インターフェースを使用できます。更新が完了すると、次回 WebUI インターフェースにログインするときに最新バージョンを使用することになります。

Chapter 8. Power BI レポート

Microsoft Power BI Desktop デスクトップは、BigFix が生成するデータを意味のある理解しやすい方法で表示するのに役立つツールです。既存の Power BI レポートを BigFix Insights の環境に追加できます。

次の作業は、Power BI レポートのデータを生成するための前提条件です。

- Microsoft の Web サイトから無償の Power BI Desktop パッケージをダウンロードし、BigFix Insights データベースにアクセスできる Power BI Desktop をインストールします。

以下の手順は、2021 年 7 月の Power BI デスクトップ・バージョンに基づいています。

- BigFix Insights をセットアップします。
- BigFix Insights にデータ・ソースを追加します。
- 抽出、変換、およびロード (ETL) プロセスを正常に実行します。
- コンソールから次の Fixlet をダウンロードしてインストールします。
 - Bigfix Insights – Power BI – パッチ修復
 - Bigfix Insights – Power BI – デバイスのインベントリー

HCL が提供するすべての Power BI レポートについて、次のステップを繰り返します。現在、レポートにはパッチ修復とデバイスのインベントリーが含まれています。

初期構成

1. Power BI Desktop で *.pbix ファイルのいずれかを開きます。
 - a. SQL Server の「認証」ダイアログ・ボックスが次のように表示されます。
 - b. 左のペインで「データベース」をクリックします。
次のダイアログ・ボックスが表示されます。

The screenshot shows a configuration window titled "SQL Server database". On the left is a sidebar with three items: "Windows", "Database" (which is highlighted), and "Microsoft account". The main content area has a label "User name" above a text input field, a label "Password" above another text input field, and a dropdown menu labeled "Select which level to apply these settings to". At the bottom, there are three buttons: "Back", "Connect" (highlighted in yellow), and "Cancel".

c. 環境に応じて、次の項目を変更します。

サーバー	Microsoft SQL Server の IP アドレスまたは DNS 名を入力します。利便性を高めるために、HCL はすべての Power BI レポートで <i>bigfix.insights.database</i> という共通の DNS 名を提供しています。この DNS レコードを DNS サーバーに追加するか、Power BI Desktop を実行しているコンピューターのローカル HOSTS ファイルに追加することができます。
データベース	BigFix Insights データベースの名前を入力します。これは、BigFix Insights を初めてセットアップする際に WebUI で使用するデフォルトのデータベース名です。
ユーザー名	提供されている HCL Power BI レポートは、SQL 認証を使用します。SQL 認証を使用している場合は、ユーザー名を入力します。
パスワード	SQL 認証を使用している場合は、パスワードを入力します。

**Note:**

SQL Server で Windows 認証を有効にし、Power BI Desktop を実行しているユーザーが BigFix Insights データベースにアクセスできる場合は、認証方式を「Windows 認証を使用する」に変更できます。ワークブックを Tableau Server に公開すると、これは Tableau Server が SQL Server にアクセスするためにデフォルトで使用するアカウントになります。これらのデータ入力項目に正しく入力すると、レポートが引き続き読み込まれます。これで、ワークブックを公開する準備ができました。

2. 表示または編集する追加の *.pbix ファイルごとに、ステップ 1 と 2 を繰り返します。

サンプル・レポート

サンプル・レポートのスクリーン・ショットを以下に示します。

パッチ修復のサンプル・レポート

Patch Remediation

Date

Last

1

Years

5/22/2020 - 5/21/2021

Total Patch Exposure by Month



Pct Patches Remediated by Month



5002

Patch Exposure

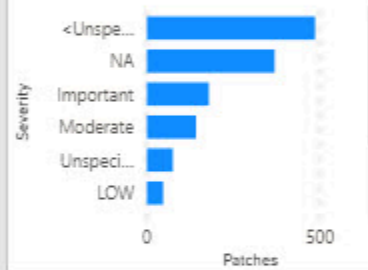
0%

Remed. Since MSFT Patch Tues

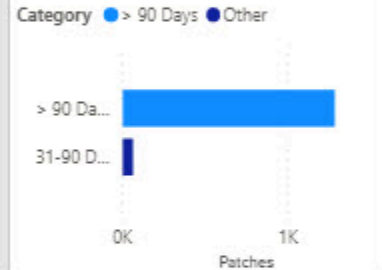
10

Days Since Patch Tuesday (MSFT)

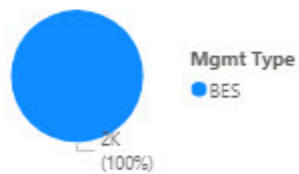
Exposure by Severity



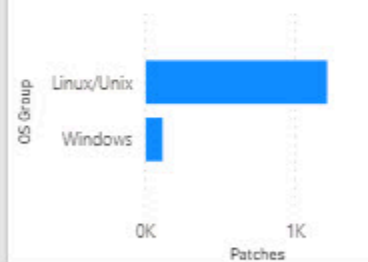
Exposure by Release Date



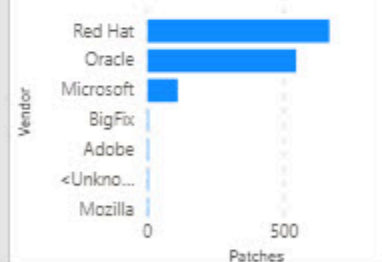
Exposure by Mgmt Type



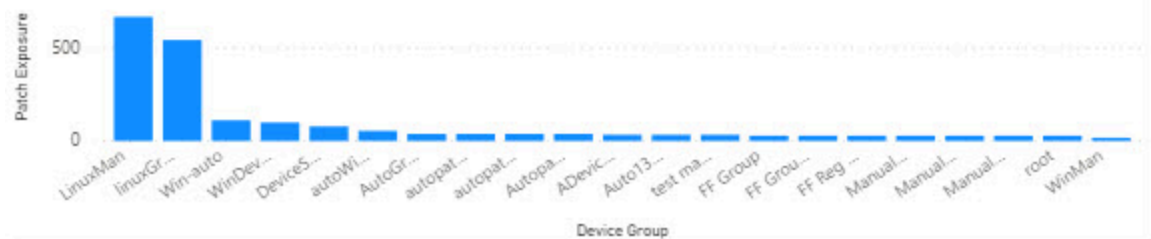
Exposure by OS Group



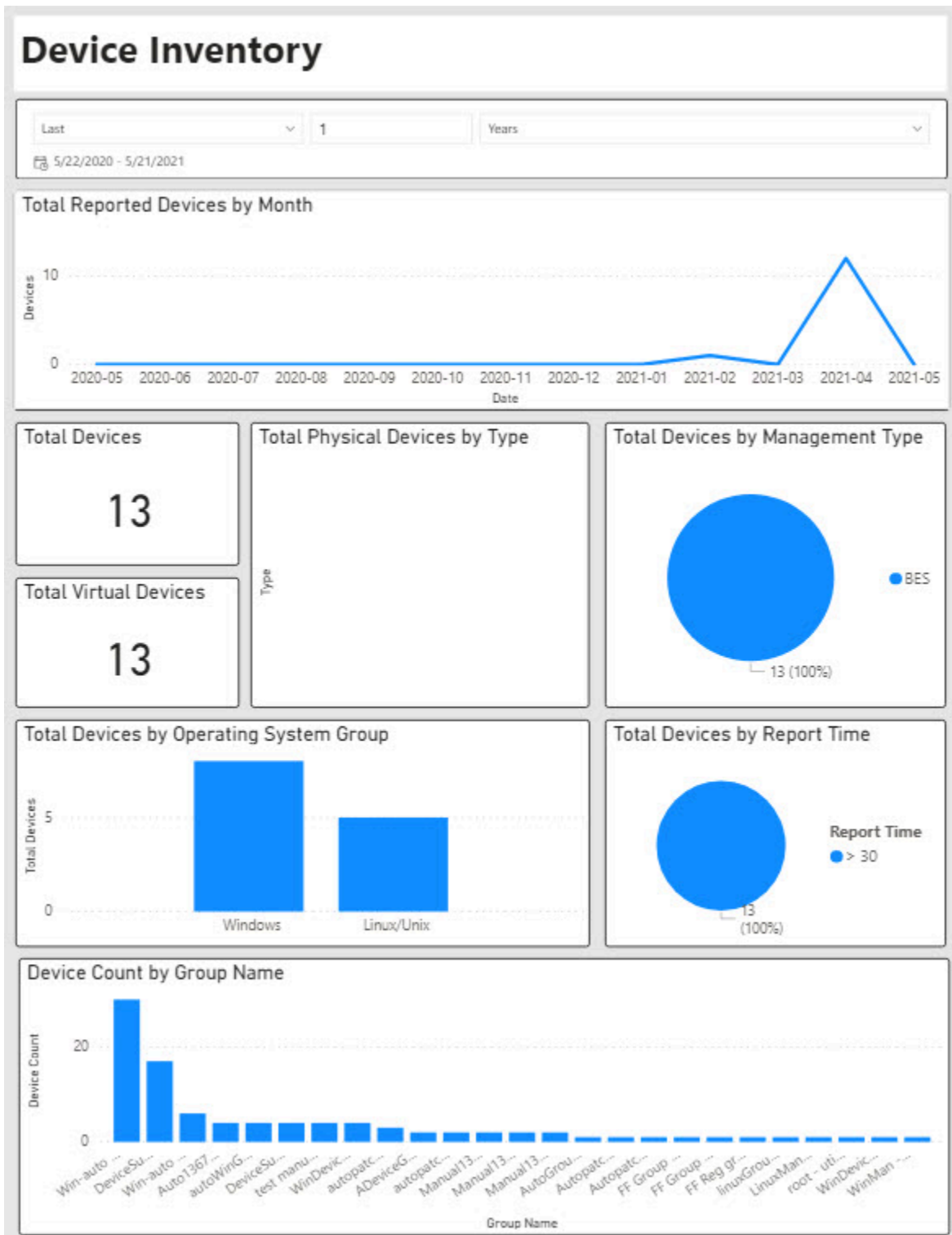
Exposure by Vendor



Patch Exposure by Device Group



デバイスのインベントリーのサンプル・レポート



Chapter 9. Tableau ワークブック

Tableau Desktop と Tableau Server は、BigFix で分かりやすく取り込み可能な方法で生成する貴重なデータを表示できる、パワフルなツールです。この章では既存の Tableau ワークブックを BigFix Insights の実装に追加する方法について説明します。

Tableau ワークブックを生成するための前提条件は次のとおりです。

- Tableau の適切なライセンスを購入します。このトピックにリストされているタスクを実行するには、Creator ライセンスが必要です。
- Tableau Desktop および Tableau Server は、バージョン 2019.2 以上である必要があります。そうしないと、提供されているワークブック内で利用される機能がサポートされません。
- BigFix Insights データベースにアクセス可能な Tableau Server をインストールします。
- BigFix Insights データベースにアクセス可能な Tableau Desktop をインストールします。
- BigFix Insights をセットアップします。
- BigFix Insights にデータ・ソースを追加します。
- ETL を実行し正常に動作していることを確認します。

BigFix Insights には、Tableau ワークブックの次の 4 つのサンプルが含まれています。

- パッチ・リズム
 - デバイスのインベントリー
 - オペレーティング・システムのマイグレーション
 - デプロイメント進行状況
1. BigFix 内で、Insights の外部サイトにある該当する Fixlet でアクションを行います。これらの Fixlet は必要な `.sql` および `.twb` ファイルを指定した場所にダウンロードします。
 - a. BigFix Insights – Tableau - PatchRhythm
 - b. BigFix Insights – Tableau - DeviceInventory
 - c. BigFix Insights – Tableau - Operating SystemMigrations
 - d. BigFix Insights – Tableau - DeploymentProgress
 2. Microsoft SQL Server Management Studio (SSMS) を開き、BigFix Insights データベースに接続します。
 3. 必要なストアド・プロシージャを作成します。必要なストアド・プロシージャは、次の手順で作成できます。
 - a. 各サンプル・レポートには 1 つ以上の `.sql` ファイルが含まれています。
 - パッチ・リズムには PatchRhythm.sql と PatchRhythm_1.sql が含まれています。
 - デバイスのインベントリーには、DeviceInventory.sql が含まれています。

- オペレーティング・システムのマイグレーションには、OperatingSystemMigrations.sql、OperatingSystemMigrations_1.sql、OperatingSystemMigrations_2.sql、および OperatingSystemMigrations_5.sql が含まれています。
 - デプロイメント進行状況には、DeploymentProgress.sql、DeploymentProgress_1.sql、および DeploymentProgress_2.sql が含まれています。
- b. SSMS で **.sql** ファイルを開きます。
- c. SSMS で開いているタブのいずれかを選択し、「使用可能なデータベース」ドロップダウンで BigFix Insights データベースを選択して、「実行」をクリックします。
- d. 開いているタブごとにステップ 3 を繰り返します。
これで Microsoft SQL Server の設定が完了しました。
4. Tableau ワークブックを開きます。**Tableau Desktop** で **.twb** ファイルのいずれかを開きます。SQL Server の「認証」ダイアログが次のように表示されます。



Microsoft SQL Server Edit connection

bigfix.insights.database

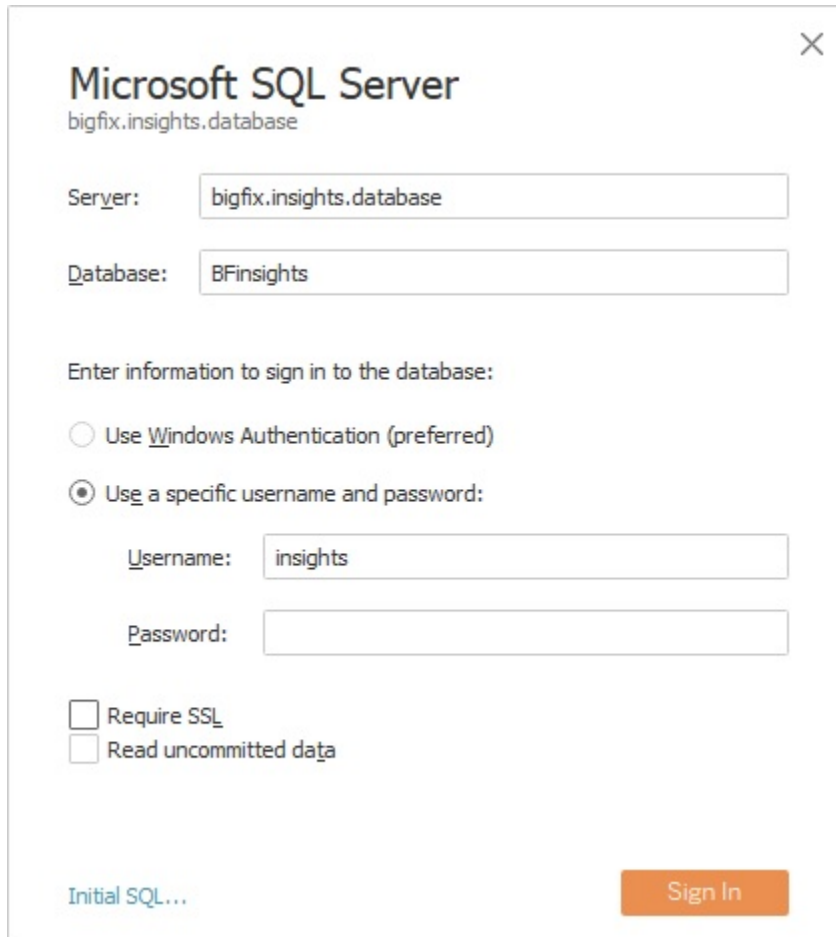
Username:

Password:

別のダイアログ・ボックスが表示された場合は、そのダイアログ・ボックスにも「接続の編集」リンクがあります。

次に、ワークブックが正しく機能するように接続設定を編集する必要があります。

- a. 右上端の「接続の編集」をクリックします。
次のダイアログが表示されます。



- b. 環境に応じて、次の 4 つの項目を変更します。

サーバー

Microsoft SQL Server の IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

利便性を高めるために、HCL はすべての Tableau ワークブックで *bigfix.insights.database* という共通の DNS 名を提供しています。この DNS レコードを DNS サーバーに追加するか、Tableau Desktop を実行しているコンピューターのローカル HOSTS ファイルに追加することができます。

データベース

BigFix Insights データベースの名前を入力します。これは、BigFix Insights を初めてセットアップする際に WebUI で使用するデフォルトのデータベース名です。

ユーザー名

HCL が提供する Tableau ワークブックでは SQL 認証を利用しています。SQL 認証を使用している場合は、ユーザー名を入力します。

パスワード

SQL 認証を使用している場合は、パスワードを入力します。



Note:

SQL Server で Windows 認証を有効にし、Tableau Desktop を実行しているユーザーが BigFix Insights データベースにアクセスできる場合は、認証を「Windows 認証を使用する (推奨)」に変更できます。ワークブックを Tableau Server に公開すると、これは Tableau Server が SQL Server にアクセスするためにデフォルトで使用する Windows アカウントになります。Windows 認証を使用し、Tableau Desktop ユーザー・アカウントが Tableau Server で SQL データベースにアクセスしているユーザー・アカウントと異なる場合は、ワークブックを公開した後、Tableau Server 内からユーザー名とパスワードを手動で変更します。

上記のデータ入力項目が正常に完了したら、「サインイン」をクリックします。レポートは読み込みを続行します。これで、ワークブックを公開する準備ができました。

5. 次のステップを実行して、ワークブックを公開します。

a. **Tableau Desktop** を開き、「サーバー」>「ワークブックの公開」をクリックします。

b. 「ワークブックを Tableau Server に公開」ダイアログが次のよう表示されます。

Publish Workbook to Tableau Server

Project
BigFix Insights

Name
Deployment Progress
Workbook name is already in use. Publishing will overwrite the existing workbook.

Description

Tags
Add

Sheets
All Edit

Permissions
Set to existing workbook default Edit

Data Sources
1 embedded in workbook Edit

More Options

☐ Show sheets as tabs

☒ Show selections

☒ Include external files

Publish

c. ワークブックを公開するプロジェクトを選択します。

d. ワークブックの名前を選択します。



Note:

名前が既に存在する場合は、新しい名前を入力します。既に存在する名前でワークブックを公開すると、既存のワークブックを上書きするかどうかを指定するように求められます。

- e. 「公開」をクリックします。

ワークブックが正常に公開されると、Web ブラウザーが開き (ここで Tableau Server に自動的にログインします)、新しく公開されたワークブックが表示されます。

ストアード・プロシーチャーのサンプルの使用

提供されるストアード・プロシーチャーでは、ニーズに合わせて定義するいくつかのカスタム属性を活用できます。詳しくは、「[カスタム属性の追加および編集](#)」を参照してください。

1. すべてのストアード・プロシーチャーには「タイム・ゾーン」属性が必要です。これにより選択したタイム・ゾーンでレポートを表示できます。

属性名 = タイム・ゾーン、属性値 = 太平洋標準時になります。Microsoft SQL Server のお使いのバージョンでサポートされている使用可能なタイム・ゾーンのリストから使用するタイム・ゾーンを選択します。タイム・ゾーンが指定されていない場合、レポートではデフォルトで UTC タイム・ゾーンに設定されます。

2. パッチ・リズム・レポートのデフォルトの重大度順は、その重要度に関連するパッチの数が降順にリストされ、次に重要度の名前がアルファベット順にリストされます。1 つ以上のカスタム属性を作成して、ソート順をカスタマイズできます。

属性名 = きわめて重要、属性値 = 1、カテゴリー = severity_order_by。カテゴリーは、ストアード・プロシーチャーで読み込むエントリーを指定できるように、カスタム属性テーブルの該当するすべてのエントリーで必要です。「きわめて重要」では BigFix によって提供された重要度を特定してこのソート順の値を割り当てます。1 はストアード・プロシーチャーでソートを実行するために使用する値を表します。値が小さくなると、重要度リストに表示される重要度が上がります。同じ値を複数の重要度に割り当てることができます。ストアード・プロシーチャーでは、それらの重要度をアルファベット順に並び替えます。

3. パッチ・リズム・レポートでは、デフォルトの名前から重要度の名前を変更することもできます。あるベンダーが特定の方法で重要度にラベルを付け、別のベンダーが重要度に別の方法でラベルを付けることができます。このカスタム属性で問題を修正することができます。

属性名 = n/a、属性値 = N/A、カテゴリー = severity_rename。カテゴリーは、ストアード・プロシーチャーで読み込むエントリーを指定できるように、カスタム属性テーブルの該当するすべてのエントリーで必要です。この例では、読みやすくするためにラベル n/a を N/A に変更します。このエントリーがカスタム属性テーブルに追加されていない場合、n/a と N/A を別々の重要度として表す 2 つの行が表示される可能性があります。このカスタム属性を追加すると、これら 2 つの値が 1 つの行に結合されます。

4. デバイス・インベントリ・レポートでは、長いオペレーティング・システム名を短縮できます。

属性名 = Win10 10.0.18362.592 (1903)、属性値 = Win10 (1903)、カテゴリー = os_shortener。カテゴリーは、ストアード・プロシージャーで読み込むエントリーを指定できるように、カスタム属性テーブルの該当するすべてのエントリーが必要です。

5. デバイスのインベントリー・レポートでは、オペレーティング・システムを適切なファミリーにグループ化することもできます。

属性名 = Win10 (1903)、属性値 = Windows、カテゴリー = os_families。カテゴリーは、ストアード・プロシージャーで読み込むエントリーを指定できるように、カスタム属性テーブルの該当するすべてのエントリーが必要です。このエントリーに基づき、ストアード・プロシージャーでは短縮されたオペレーティング・システム名を Windows グループに割り当てます。お使いの BigFix 環境でサポートされる Linux、Mac OS X などのオペレーティング・システムでこのエントリーを繰り返すことができます。

6. オペレーティング・システムのマイグレーション・レポートでは、os_shortener と os_families のカスタム属性を活用することもできます。

7. オペレーティング・システム移行レポートでは、対応および非対応オペレーティング・システムを定義することができます。デフォルトでは、このストアード・プロシージャーは、Fixlet でサポートされていないオペレーティング・システムを調べ、適用性をチェックして、オペレーティング・システムがベンダーによってサポートされているかどうかを判別します。現在これらの Fixlet は、Microsoft オペレーティング・システムにのみ関連付けられています。次のカスタム属性を使用して、独自のベンダー・サポート状況を定義できます。

属性名 = Win7、属性値 = 0、カテゴリー = os_vendor_support。カテゴリーは、ストアード・プロシージャーで読み込むエントリーを指定できるように、カスタム属性テーブルの該当するすべてのエントリーが必要です。お使いのオペレーティング・システムが Win7 と一致すると、このレポートには Win7 がベンダーによって非対応として表示されます。この例では [os_families] Win7 が定義されていることを前提としています。Windows 7 のサポート終了日に、BigFix には一致する非対応 Fixlet が含まれていなかったため、ストアード・プロシージャーですべての Windows 7 デバイスを非対応としてマークできました。このカスタム属性を追加すると、レポートですべての Windows 7 デバイスを非対応として表示できます。現在、BigFix には Windows 7 非対応の Fixlet が含まれているため、この目的のためのこのカスタム属性は不要になりました。属性値を 1 に設定すると、適用可能な既存の非対応の Fixlet がある場合でも、オペレーティング・システムは対応としてマークされます。これは、Microsoft for Windows 7 から延長サポートを購入した場合に使用されます。

8. デプロイメント進行状況レポートでは、os_shortener と os_families カテゴリー項目を利用することもできます。
9. デプロイメント進捗状況レポートでは、成功、保留中、または失敗と見なされる 30 以上のアクション結果状況を特定することができます。これらの状況を事前定義していない場合、「アクションの結果」は [unknown] としてラベル付けされます。

「アクションの結果」のステータスとその説明の完全なリストを表示するには、BigFix Insights データベースの `action_state_strings` テーブルを確認します。0 未満のすべての ID は自動的にとして定義されます。

- 属性名 = 成功、属性値 = 0|3|5|17、カテゴリー = `action_result_status`。これらのアクション結果状況 ID は、HCL によってこのストアード・プロシージャーでは「成功」として定義されています。パイプ文字「|」で区切られた 4 つの異なる ID が表示されます。これらの ID は、必要に応じて変更できます。各 ID はアクションのデプロイメント中にデバイスから BigFix サーバーに報告された状況を示します。
- 属性名 = 保留中、属性値 = 1|2|6|7|8|9|10|11|12|13|14|15|16|19|20|21|22|24|25|27|28|29|30|33|34|35|36|37、カテゴリー = `action_result_status`。これらのアクション結果状況 ID は、HCL によってこのストアード・プロシージャーでは「保留中」として定義されています。
- 属性名 = 失敗、属性値 = 4|18|23|26|31|32、カテゴリー = `action_result_status`。これらのアクション結果状況 ID は、HCL によってこのストアード・プロシージャーでは「失敗」として定義されています。

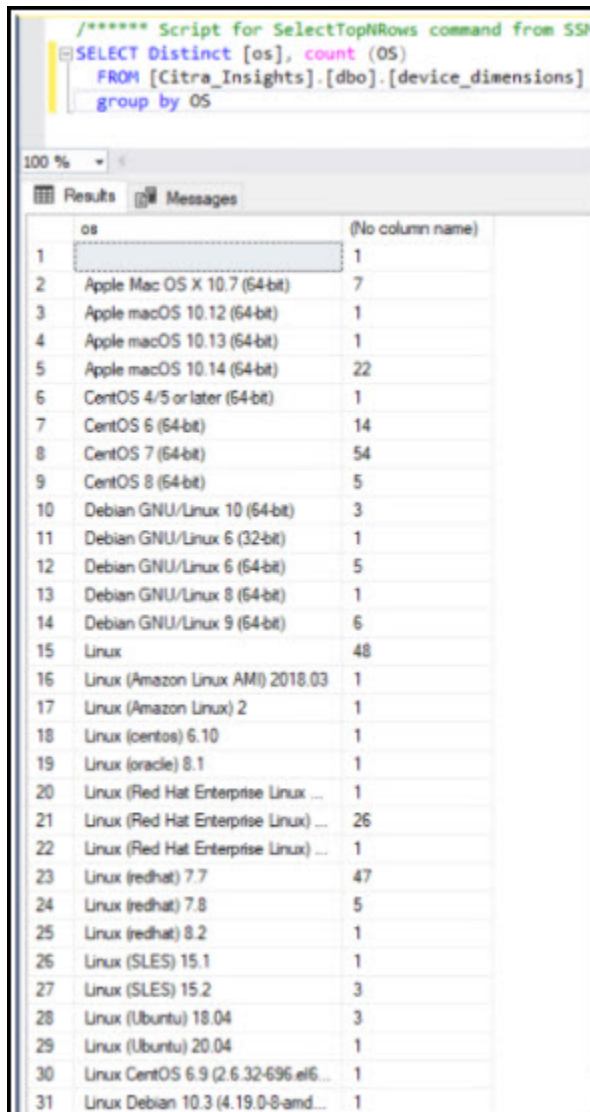
Chapter 10. カスタム属性の追加および編集

このトピックではカスタム属性を作成、編集、および削除する方法を説明します。

カスタム属性は、Insights データベース内に外部情報を追加するために使用されます。この情報は、レポート作成のユース・ケースに役立てることができます。カスタム属性を作成すると、Insights レポート内の別名値に利用できます。この機能の実用的なユース・ケースの例を以下に示します。

ユース・ケース: BigFix は、システムにインストールされているオペレーティング・システムのリテラル解釈を提供します。これは、オペレーティング・システム API を介して報告されますが、結果のストリングは OS によって多少異なる場合があります。次のスクリーンショットを参照してください。

Figure 2. 例



```
/****** Script for SelectTopNRows command from SSH
SELECT Distinct [os], count (OS)
FROM [Citra_Insights].[dbo].[device_dimensions]
group by OS
```

	os	(No column name)
1		1
2	Apple Mac OS X 10.7 (64-bit)	7
3	Apple macOS 10.12 (64-bit)	1
4	Apple macOS 10.13 (64-bit)	1
5	Apple macOS 10.14 (64-bit)	22
6	CentOS 4/5 or later (64-bit)	1
7	CentOS 6 (64-bit)	14
8	CentOS 7 (64-bit)	54
9	CentOS 8 (64-bit)	5
10	Debian GNU/Linux 10 (64-bit)	3
11	Debian GNU/Linux 6 (32-bit)	1
12	Debian GNU/Linux 6 (64-bit)	5
13	Debian GNU/Linux 8 (64-bit)	1
14	Debian GNU/Linux 9 (64-bit)	6
15	Linux	48
16	Linux (Amazon Linux AMI) 2018.03	1
17	Linux (Amazon Linux) 2	1
18	Linux (centos) 6.10	1
19	Linux (oracle) 8.1	1
20	Linux (Red Hat Enterprise Linux ...	1
21	Linux (Red Hat Enterprise Linux) ...	26
22	Linux (Red Hat Enterprise Linux) ...	1
23	Linux (redhat) 7.7	47
24	Linux (redhat) 7.8	5
25	Linux (redhat) 8.2	1
26	Linux (SLES) 15.1	1
27	Linux (SLES) 15.2	3
28	Linux (Ubuntu) 18.04	3
29	Linux (Ubuntu) 20.04	1
30	Linux CentOS 6.9 (2.6.32-696.el6...	1
31	Linux Debian 10.3 (4.19.0-8-amd...	1

与えられたすべての Linux ディストリビューションと個々の Linux ディストリビューションごとのカウン
トのロールアップ・ カウントを提供したいと考えています。これは、カスタム属性の活用が役立つ多くの
ユース・ ケースの 1 つです。以下に示すデータを確認してください (2 つの照会があります)。最初の照
会では、custom_attributes テーブルの内容が表示されます。テーブルにはさまざまなディストリビュー
ションが取り込まれています。2 つ目の照会では、テーブルを活用してデータを正規化し、それに応じ
てデータをグループ化しています。この 2 つを一緒に使用することによって、すべての Linux ディスト
リビューションのオペレーティング・ システムをロールアップする基本的なユース・ ケースが可能にな
りました。

Figure 3. ユース・ ケース - 例

```

Select top 20 * from custom_attributes

Select attribute_name, count(attribute_name) as 'count'
from device_dimensions as dd
inner join custom_attributes as ca on dd.os = ca.attribute_value
where ca.attribute_name = 'Linux'
group by attribute_name
  
```

id	attribute_name	attribute_value	last_updated	category
1	Linux	Debian GNU/Linux 10 (64-bit)	2021-09-21 16:08:48	os_alias
2	Linux	Debian GNU/Linux 6 (32-bit)	2021-09-21 16:08:48	os_alias
3	Linux	Debian GNU/Linux 6 (64-bit)	2021-09-21 16:08:48	os_alias
4	Linux	Debian GNU/Linux 8 (64-bit)	2021-09-21 16:08:48	os_alias
5	Linux	Debian GNU/Linux 9 (64-bit)	2021-09-21 16:08:48	os_alias
6	Linux	Linux (Amazon Linux AMI) 2018.03	2021-09-21 16:08:48	os_alias
7	Linux	Linux (Amazon Linux) 2	2021-09-21 16:08:48	os_alias
8	Linux	Linux (centos) 6.10	2021-09-21 16:08:48	os_alias
9	Linux	Linux (oracle) 8.1	2021-09-21 16:08:48	os_alias
10	Linux	Linux (Red Hat Enterprise Linux Server) 7.9	2021-09-21 16:08:48	os_alias
11	Linux	Linux (Red Hat Enterprise Linux) 8.0	2021-09-21 16:08:48	os_alias
12	Linux	Linux (Red Hat Enterprise Linux) 8.2	2021-09-21 16:08:48	os_alias
13	Linux	Linux (redhat) 7.7	2021-09-21 16:08:48	os_alias
14	Linux	Linux (redhat) 7.8	2021-09-21 16:08:48	os_alias
15	Linux	Linux (redhat) 8.2	2021-09-21 16:08:48	os_alias
16	Linux	Linux (SLES) 15.1	2021-09-21 16:08:48	os_alias

attribute_name	count
Linux	735

要するに、指定された照会と組み合わせてカスタム属性テーブルを使用すれば、このユース・ ケースの
データを正規化してグループ化することができます。Custom_Attributes は、BigFix で公開されているい
くつかのサンプル・ レポート内で利用されています。

カスタム属性への許可の割り当て

WebUI オペレーターがカスタム属性を追加、編集、削除できるようにするには、次のステップを実行します。



Note:

カスタム属性を追加、編集、削除するには、「レポート属性: 作成/編集/削除」の「グローバル権限の設定」チェック・ボックスを選択する必要があります。

1. マスター・オペレーターとして WebUI にログインします。



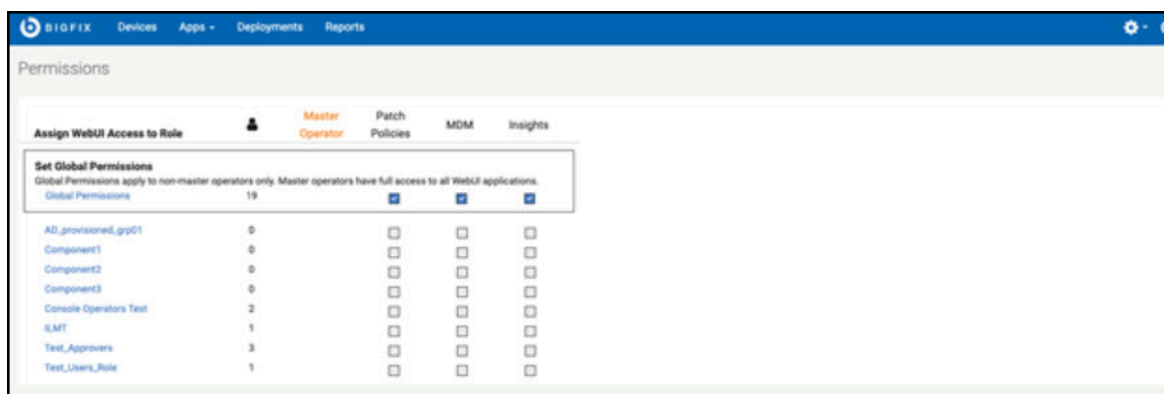
Note:

権限を割り当てるには、マスター・オペレーターの権限が必要です。

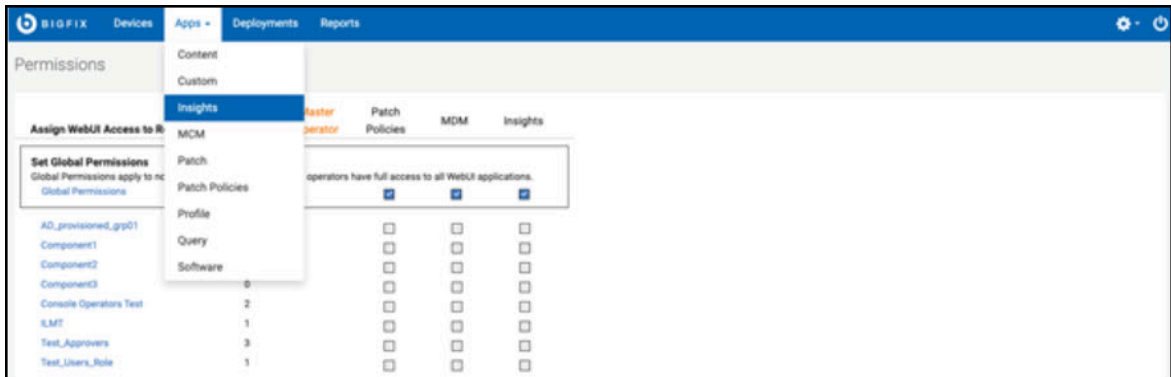
2. 「設定」歯車に移動し、「権限」をクリックします。



3. Insights アプリケーションに必要な役割アクセスを割り当てます。



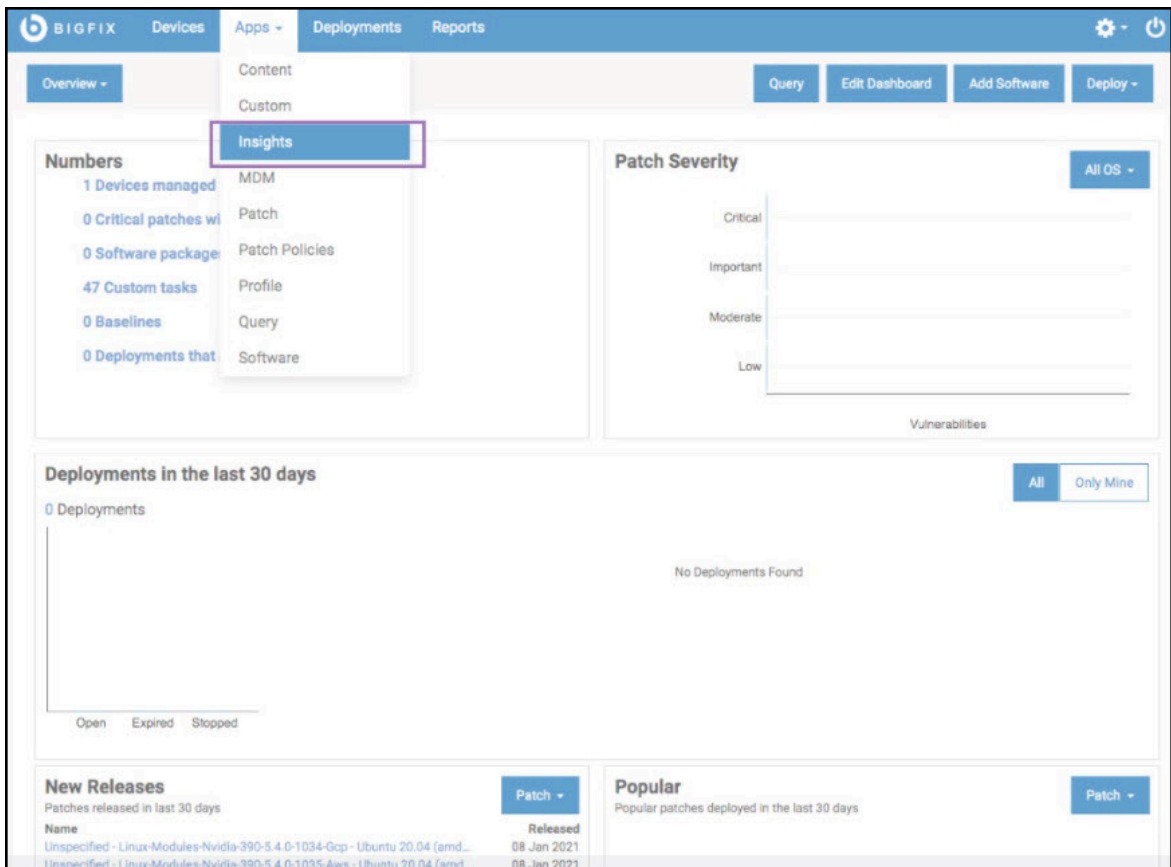
4. ユーザーに Insights アプリケーションへのアクセス権が付与されると、そのユーザーの「WebUI アプリケーション」ドロップダウンに Insights アプリケーションが表示されるようになります。



カスタム属性の追加

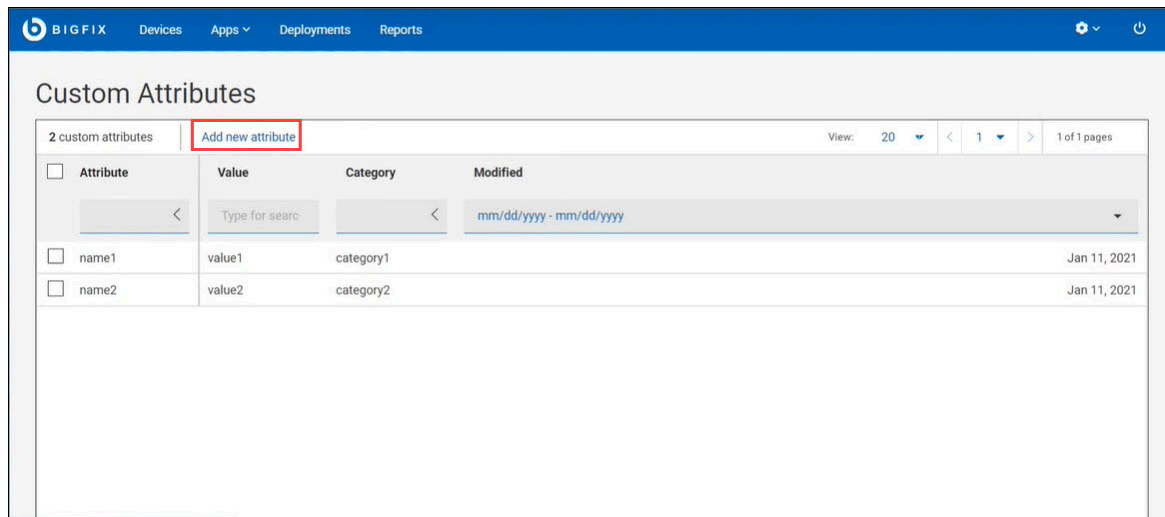
次のステップを実行して、カスタム属性を追加します。

1. WebUI にログインします。
2. 「アプリケーション」タブをクリックし、「Insights」をクリックします。

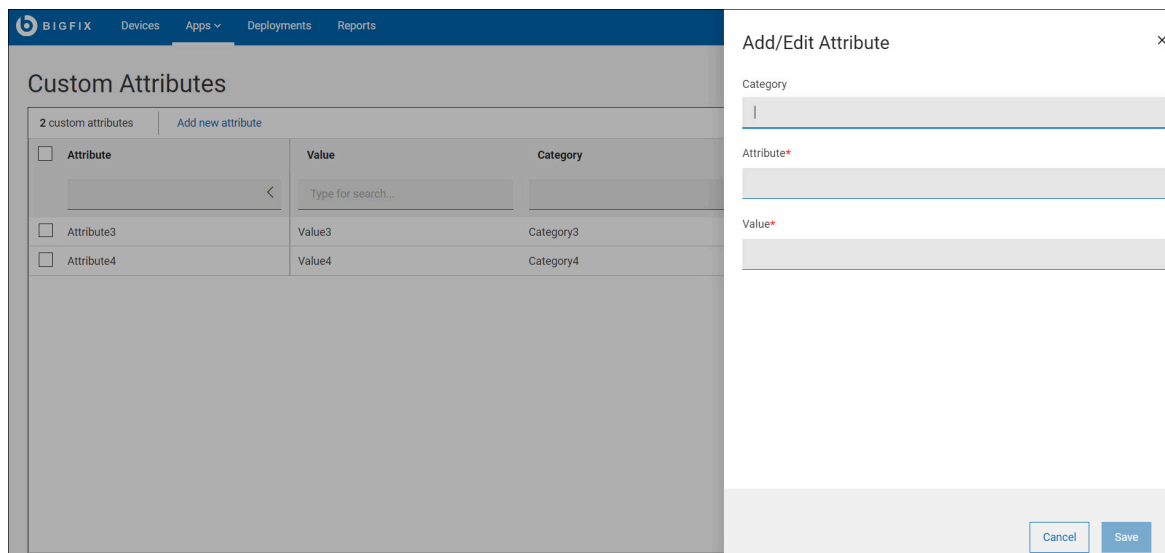


データ・グリッド・ビューでは、カスタム属性、値、およびカテゴリー・リストをすばやく表示できます。属性ごとに、検索またはフィルタリングのオプションが用意されています。列の追加、削除、およびサイズ変更を行うことができます。

3. 「カスタム属性」ページの「新規属性の追加」をクリックします。



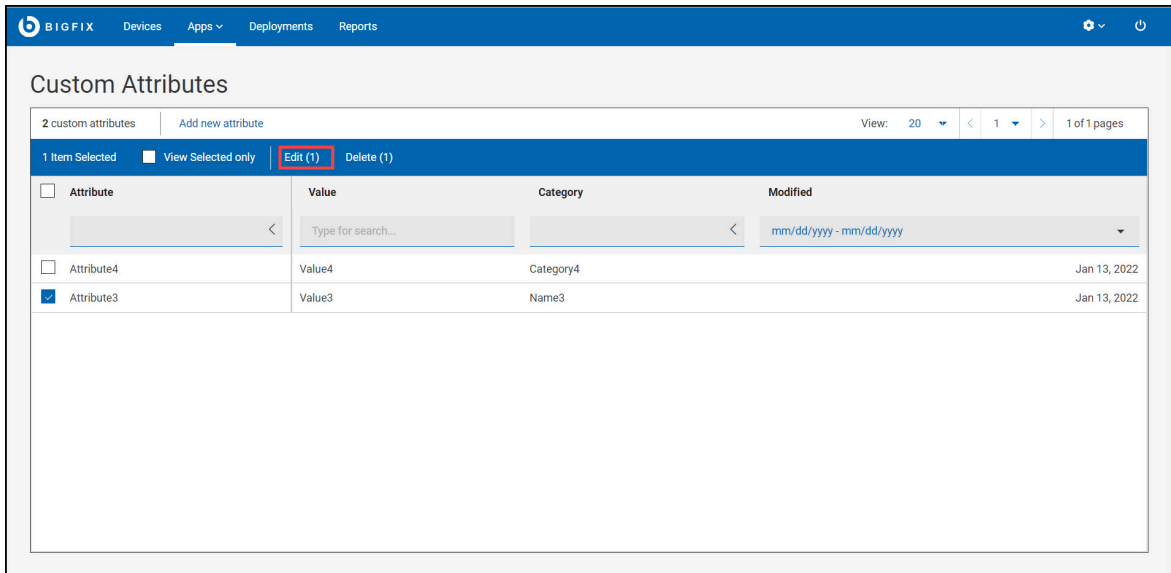
4. 「属性の追加/編集」スライド・アウト・ウィンドウで「カテゴリー名」、「属性名」、「値」を入力して、「OK」をクリックします。



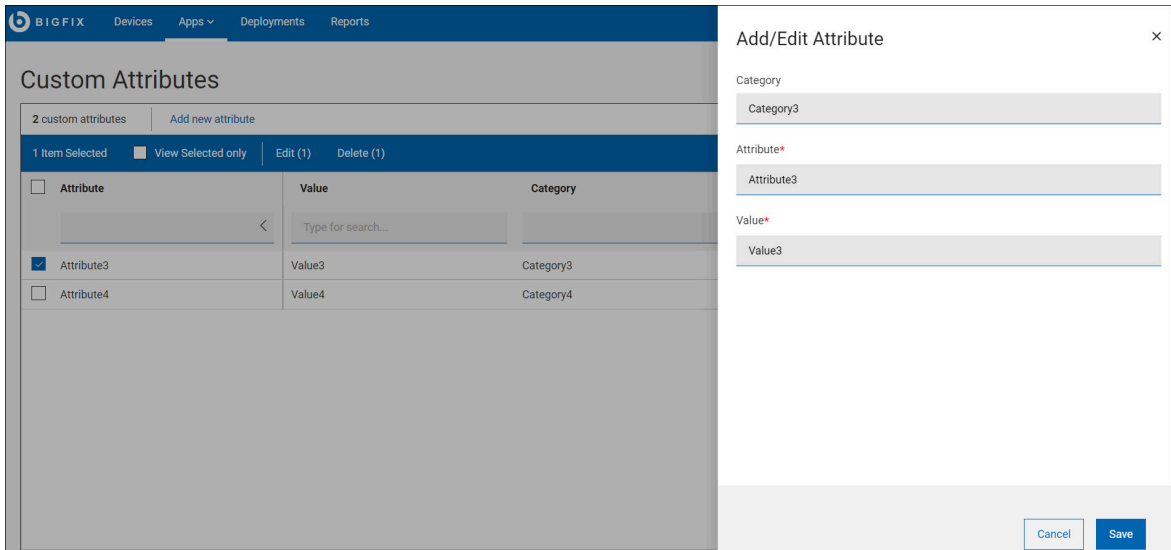
カスタム属性の編集

次のステップを実行して、カスタム属性を編集します。

1. WebUI の「カスタム属性」ページに移動します。
2. 編集する属性をリストから検索または選択し、編集アイコンをクリックします。



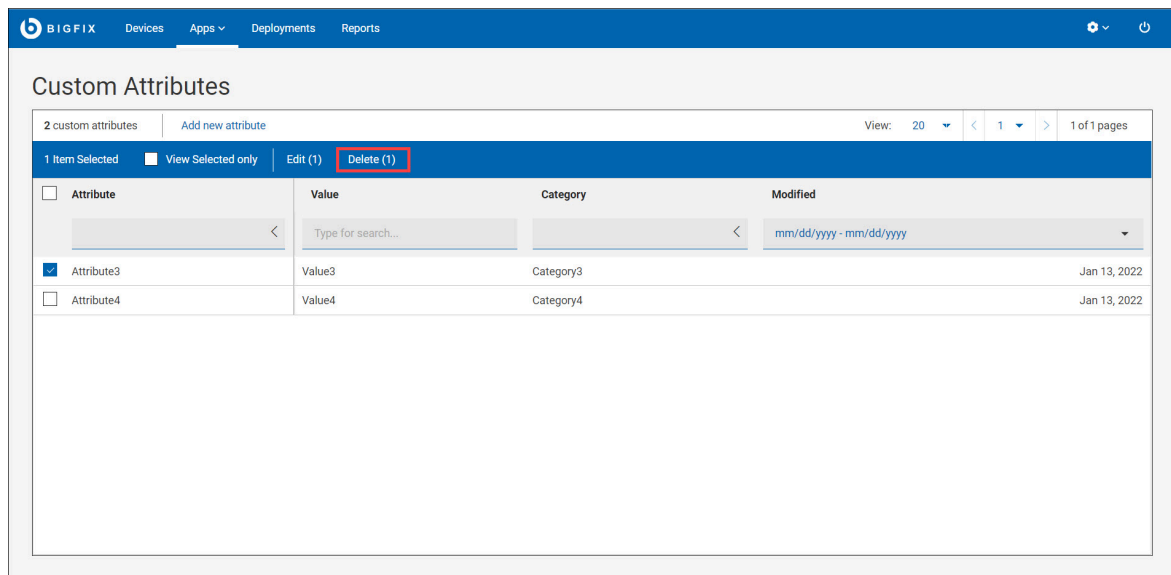
3. 「カテゴリー」、「属性」、「値」を編集し、「保存」をクリックします。



カスタム属性の削除

次のステップを実行して、既存のカスタム属性を削除します。

1. WebUI の「カスタム属性」ページに移動します。
2. 削除する属性をリストから選択または検索し、「削除」をクリックします。



3. クリックすると、削除の確認を求めるプロンプトが表示されます。

Chapter 11. Insights スキーマ

このセクションの表は、BigFix 10 Insights スキーマに関する詳細情報を提供します。

Table 2. action_state_strings

action_state_strings テーブルには、さまざまなアクション状態の文字列表現が格納されています。datasource_action_results には **tinyint** 状態列が含まれています。アクションの結果の状態を人間が理解できる形式で確認する場合、dbo.action_state_strings を参照できます。

名前	タイプ	説明
state_number	int NOT NULL	以下に格納された状態番号 <code>datasource_action_results</code>
datasource_id	int NOT NULL	<code>state_number - state_string</code> のペアの取り込み元データソースの ID
state_string	nvarchar(max) NOT NULL	人間が理解できるバージョンの状態

Table 3. content_results

content_results テーブルには、datasource_sites、datasource_devices、datasource_analyses、および **datasource_fixlets** に関連付けられたすべてのデータ・ソースの結果が格納されます。Fixlet と分析の関連度の結果を次の表に示します。

名前	タイプ	説明
datasource_site_id	bigint NOT NULL	の ID <code>dbo.datasource_sites</code>
datasource_device_id	bigint NOT NULL	の ID <code>dbo.datasource_devices</code>
datasource_content_id	bigint NOT NULL	<code>dbo.datasource_fixlet</code> または <code>dbo.datasource_analysis</code> の ID タイプ列を確認し、オブジェクト結果行の参照先を決定します。
type	tinyint	Fixlet のタイプ。 有効な値:

Table 3. content_results

content_results テーブルには、datasource_sites、datasource_devices、datasource_analyses、および **datasource_fixlets** に関連付けられたすべてのデータ・ソースの結果が格納されます。Fixlet と分析の関連度の結果を次の表に示します。

(continued)

名前	タイプ	説明
		0 - Fixlet 1 - タスク 2 - ベースライン 3 - 分析 4 - コンピューター・グループ
<i>relevant</i>	bit	コンテンツが関連するかどうか (0/1)
<i>applicable</i>	bit	コンテンツ関連度が適用可能かどうか (0/1)
<i>resolved</i>	bit	アクションが解決されるかどうか (0/1)
<i>reverted</i>	bit	アクションを元に戻すかどうか (0、1)
<i>last_non_relevant</i>	datetime	アクションが関連しなかった最後の時間
<i>first_relevant</i>	datetime	アクションが関連した最初の時間
<i>last_relevant</i>	datetime	アクションが関連した最後の時間
<i>valid_from</i>	datetime	最新の ETL のタイムスタンプ
<i>valid_to</i>	datetime	この行の有効期限を示すタイムスタンプ

Table 4. custom_attributes

custom_attributes テーブルには、ユーザーが必要とする追加データを格納するキーまたは値のペアのセットが格納されます。これらの値は、Tableau レポートおよび **PowerBI** レポートで使用されます。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	int NOT NULL	属性の名前 - 値のペアの ID
<i>attribute_name</i>	nvarchar(128) NOT NULL	属性の名前
<i>category</i>	nvarchar(128) NOT NULL	カテゴリーの値
<i>attribute_value</i>	nvarchar(128) NOT NULL	属性の値
<i>last_updated</i>	datetime2 NOT NULL	属性が最後に更新されたタイムライン

Table 5. datasource_action_results

datasource_action_results テーブルには、ETL が実行されたすべてのデータ・ソースからのアクションの結果が格納されます。情報は **BFE actionresults** テーブルから取得されます。

名前	タイプ	説明
<i>datasource_device_id</i>	bigint NOT NULL	結果が属し、次を参照するデバイスの ID: <i>dbo.datasource_devices.id</i>
<i>datasource_action_id</i>	bigint NOT NULL	結果が属し、次を参照するアクション ID: <i>dbo.datasource_actions.id</i>
<i>start_time</i>	datetime NULL	の StartTime 列から取得します BFE ACTIONRESULTS
<i>end_time</i>	datetime NULL	の EndTime 列から取得します BFE ACTIONRESULTS
<i>try_count</i>	smallint NOT NULL	の TryCount 列から取得します BFE ACTIONRESULTS

Table 5. datasource_action_results

datasource_action_results テーブルには、ETL が実行されたすべてのデータ・ソースからのアクションの結果が格納されます。情報は **BFE actionresults** テーブルから取得されます。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>retry_count</i>	smallint NOT NULL	の RetryCount 列から取得します BFE ACTIONRESULTS
<i>line_number</i>	smallint NOT NULL	の LineNumber 列から取得します BFE ACTIONRESULTS
<i>state</i>	smallint NOT NULL	BFE ACTIONRESULTS の State 列から取得され、数値表現を含みます。人間が読める形式のものは次に格納されています: <i>dbo.action_state_strings</i>
<i>report_number</i>	bigint NOT NULL	の ReportNumner 列から取得します BFE ACTIONRESULTS
<i>exit_code</i>	int NULL	の ExitCode 列から取得します BFE ACTIONRESULTS
<i>valid_from</i>	datetime2(3) GENERATED ALWAYS AS ROW START NOT NULL	最新の ETL のタイムスタンプ
<i>valid_to</i>	datetime2(3) GENERATED ALWAYS AS ROW END NOT NULL	行の有効期限を示すタイムスタンプ

Table 6. datasource_actions

datasource_actions テーブルには、ETL が実行されたすべてのデータ・ソースのアクションが格納されます。アクションは **BFE ACTIONS** テーブルから取得されます。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint IDENTITY(1,1) NOT NULL	アクションの BigFix Insights DB ID
<i>remote_id</i>	bigint NOT NULL	BFE ACTIONS テーブルのアクション・オブジェクト ID

Table 6. datasource_actions

datasource_actions テーブルには、ETL が実行されたすべてのデータ・ソースのアクションが格納されます。アクションは **BFE ACTIONS** テーブルから取得されます。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	アクションが ETL を実行されたデータソースの ID であり、d-bo.datasource.id を参照します
<i>datasource_site_id</i>	bigint NOT NULL	アクションが ETL を実行されたサイト ID であり、次を参照します: <i>dbo.datasource_site.id</i>
<i>type</i>	int NOT NULL	アクションのタイプ
<i>deleted</i>	tinyint NOT NULL	アクションが削除されているかどうか
<i>parent_id</i>	int NULL	の ParentID 列から取得します BFE ACTIONS
<i>is_subscription</i>	int NOT NULL	の IsSubscription 列から取得します BFE ACTIONS
<i>is_setting</i>	int NOT NULL	の IsSetting 列から取得します BFE ACTIONS
<i>inception_time</i>	datetime NULL	の InceptionTime 列から取得します BFE ACTIONS
<i>expiration_time</i>	datetime NULL	の ExpirationTime 列から取得します BFE ACTIONS
<i>stopped_at</i>	datetime NULL	の StoppedAt 列から取得します BFE ACTIONS
<i>stopped_by</i>	int NULL	の StoppedBy 列から取得します BFE ACTIONS
<i>name</i>	nvarchar(1024) NOT NULL	アクションの名前
<i>state</i>	tinyint NOT NULL	BFE ACTIONS の IsStopped および ExpirationTime 列を見て計算されたアクションの状態:

Table 6. datasource_actions

datasource_actions テーブルには、ETL が実行されたすべてのデータ・ソースのアクションが格納されます。アクションは **BFE ACTIONS** テーブルから取得されます。

(continued)

名前	タイプ	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • 0 - 期限切れ • 1 - 停止 • 2 - 実行中
<i>creator_id</i>	int NOT NULL	の CreatorID 列から取得します BFE ACTIONS
<i>creation_time</i>	datetime NOT NULL	の CreationTime 列から取得します BFE ACTIONS
<i>targeting_method</i>	tinyint NOT NULL	の TargetingMethod 列から取得します BFE ACTIONS
<i>targeting_relevance</i>	nvarchar(max) NULL	の TargetingRelevance 列から取得します BFE ACTIONS
<i>targeting_properties</i>	nvarchar(max) NULL	の TargetingProperties 列から取得します BFE ACTIONS
<i>source_site_url</i>	nvarchar(1024) NULL	の SourceSiteURL 列から取得します BFE ACTIONS
<i>source_site_id</i>	bigint NULL	の SourceSiteID 列から取得します BFE ACTIONS
<i>source_content_id</i>	int NULL	の SourceContentID 列から取得します BFE ACTIONS
<i>source_site_name</i>	nvarchar(1024) NULL	の SourceSiteName 列から取得します BFE ACTIONS

Table 7. datasource_actionsite_properties

datasource_properties テーブルには、アクション・サイトに存在する **BES.properties** テーブルから取得されるすべてのプロパティーが格納されます。これは一時テーブルです。プロパティーは、ディメンション・テーブルの生成に使用できる **datasource_property_map** テーブルに指定するために、ETL 内で使用されます。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1, 1)	データソース・プロパティーの ID
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	dbo.datasources ID
<i>remote_content_id</i>	bigint NOT NULL	リモート・コンテンツ ID
<i>remote_site_id</i>	bigint NOT NULL	リモート・サイト ID
<i>remote_property_id</i>	tinyint NOT NULL	リモート・プロパティー ID
<i>name</i>	nvarchar(512) NOT NULL	プロパティー名

Table 8. datasource_analyses

datasource_analyses テーブルには、ETL が実行されたデータ・ソースからの外部分析とカスタム分析が格納されます。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1, 1)	データソース分析 ID
<i>remote_id</i>	bigint NOT NULL	リモート分析 ID
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	dbo.datasources ID
<i>datasource_site_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.datasource_sites ID
<i>name</i>	nvarchar(255) NOT NULL	分析の名前
<i>deleted</i>	bit NOT NULL	コンテンツが削除されているかどうか
<i>valid_from</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW START NOT NULL	最新の ETL のタイムスタンプ
<i>valid_to</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW END NOT NULL	行の有効期限を示すタイムスタンプ

Table 9. datasource_analysis_properties

datasource_analysis_properties テーブルには、dbo.datasource_analyses に関連付けられたプロパティ・データが格納されます。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1, 1),	データソース分析プロパティ ID
<i>remote_id</i>	bigint NOT NULL	リモート・コンテンツ ID
<i>datasource_analysis_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.datasource_analyses ID
<i>name</i>	nvarchar(512) NOT NULL	プロパティの名前
<i>deleted</i>	bit NOT NULL	コンテンツが削除されているかどうか
<i>valid_from</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW START NOT NULL	最新の ETL のタイムスタンプ
<i>valid_to</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW END NOT NULL	行の有効期限を示すタイムスタンプ

Table 10. datasource_computer_groups

datasource_computer_groups テーブルは、コンピューターとグループの関係を示します。すべてのデータ・ソース・デバイスにおけるすべてのコンピューター・グループ・メンバーシップが表示されます。これは、リンクされていないフラット化されたコンピューター・グループ・メンバーシップの結果に似ており、このテーブル内にグローバルな表現はありません。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1, 1)	データソース・コンピューター・グループ ID
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	データソース ID
<i>datasource_site_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.datasource_sites ID
<i>datasource_group_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.datasource_groups ID
<i>datasource_device_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.datasource_devices ID
<i>version</i>	varbinary	グループ・バージョン

Table 10. datasource_computer_groups

datasource_computer_groups テーブルは、コンピューターとグループの関係を示します。すべてのデータ・ソース・デバイスにおけるすべてのコンピューター・グループ・メンバーシップが表示されます。これは、リンクされていないフラット化されたコンピューター・グループ・メンバーシップの結果に似ており、このテーブル内にグローバルな表現はありません。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>is_member</i>	tinyint	コンピューターがグループのメンバーであるかどうか
<i>valid_from</i>	AS ROW START NOT NULL	最新の ETL のタイムスタンプ
<i>valid_to</i>	AS ROW END NOT NULL	行の有効期限を示すタイムスタンプ

Table 11. datasource_databases

datasource_databases テーブルには、データ・ソースの定義と、データ・ソースをターゲットにして認証する方法のパラメーターが含まれています。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	int NOT NULL IDENTITY(1, 1)	データソースのデータベース ID
<i>host</i>	nvarchar(512) NOT NULL	ホスト名または IP アドレス
<i>database</i>	nvarchar(128) NOT NULL	データベース名
<i>type</i>	nvarchar(8) NOT NULL CONSTRAINT "DF_ca681866723fdb25046ba6b637c" DEFAULT 0	データソースのタイプ <ul style="list-style-type: none"> • BFE - BigFix Enterprise • BFI - BigFix Inventory • SCA - BigFix Software および Computer Analytics
<i>username</i>	nvarchar(128) NOT NULL	(暗号化された) データベース・ユーザー名
<i>password</i>	nvarchar(1024)	(暗号化された) データベース・パスワード
<i>port</i>	int	データベース・ポート

Table 11. datasource_databases

datasource_databases テーブルには、データ・ソースの定義と、データ・ソースをターゲットにして認証する方法のパラメーターが含まれています。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>domain</i>	nvarchar(512)	データベースの Windows ドメイン
<i>instance_name</i>	nvarchar(512)	データベースの SQL server インスタンスの名前
<i>approved</i>	bit NOT NULL default 0	状態: <ul style="list-style-type: none"> • 0 – public_key が NULL の場合は未承認、public_key が NULL でない場合は保留中 • 1 – 承認済み
<i>public_key</i>	nvarchar(1024)	ユーザーの公開鍵が保存されている

Table 12. datasource_devices

datasource_devices テーブルには、ETL が実行されたすべての **BES** デプロイメントのすべてのデバイスが格納されます。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1, 1)	データソースのデバイス ID
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	dbo.datasources ID
<i>remote_id</i>	bigint NOT NULL	リモート・デバイス ID
<i>name</i>	nvarchar(512)	デバイス名
<i>report_number</i>	bigint NOT NULL	最後に受信したレポートの数
<i>last_report_time</i>	datetime	最後にレポートを受信した日時。

Table 12. datasource_devices

datasource_devices テーブルには、ETL が実行されたすべての **BES** デプロイメントのすべてのデバイスが格納されます。

(continued)

名前	タイプ	説明
		形式: unix エポック・タイムスタンプ (UTC)
<i>last_report_sent</i>	datetime	最後にレポートを送信した日時。 形式: unix エポック・タイムスタンプ (UTC)
<i>locked</i>	bit NOT NULL CONSTRAINT "DF_f7c2c0228e83297504c49ac4074" DEFAULT 0	デバイスがロックされているかどうか
<i>deleted</i>	bit NOT NULL CONSTRAINT "DF_4079840396b41f9b717aed30ef9" DEFAULT 0	デバイスが削除されているかどうか
<i>valid_from</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW START NOT NULL	最新の ETL のタイムスタンプ
<i>valid_to</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW END NOT NULL	行の有効期限を示すタイムスタンプ

Table 13. datasource_fixlets

datasource_fixlets テーブルには、すべてのデータ・ソースのすべてのコンテンツが表示されます。これらは、リンクされていないフラット化されたコンテンツ・オブジェクトであり、このテーブル内にグローバルな表現はありません。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1, 1)	データソースのコンテンツ ID
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	dbo.datasources ID

Table 13. datasource_fixlets

datasource_fixlets テーブルには、すべてのデータ・ソースのすべてのコンテンツが表示されます。これらは、リンクされていないフラット化されたコンテンツ・オブジェクトであり、このテーブル内にグローバルな表現はありません。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>datasource_site_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.datasource_sites ID
<i>remote_id</i>	bigint NOT NULL,	リモート・コンテンツ ID
<i>name</i>	nvarchar(1024) NOT NULL	Fixlet 名
<i>class</i>	nvarchar(32)	Fixlet クラス名
<i>category</i>	nvarchar(255)	Fixlet カテゴリー名
<i>is_task</i>	tinyint NOT NULL	Fixlet がタスクであるかどうか
<i>severity</i>	nvarchar(1024)	Fixlet の重要度
<i>source</i>	nvarchar(255)	Fixlet ソース
<i>source_release_date</i>	nvarchar(32)	Fixlet ソースの公開日
<i>source_id</i>	nvarchar(1024)	Fixlet のソース ID
<i>download_size</i>	bigint	Fixlet のダウンロード・サイズ
<i>cve</i>	nvarchar(max)	CVE ID リスト
<i>cvss</i>	cvss nvarchar(127)	CVSS ID リスト
<i>sans</i>	nvarchar(255)	SANS ID リスト
<i>hidden</i>	bit NOT NULL CONSTRAINT "DF_9da82af0b7111ef-be9652888c6b" DEFAULT 0	Fixlet が非表示であるかどうか
<i>deleted</i>	bit NOT NULL CONSTRAINT "DF_fc594b434464ca05741816b75fe" DEFAULT 0	Fixlet が削除されているかどうか
<i>creation_time</i>	datetime	Fixlet の作成時刻
<i>user_remote_id</i>	int	ユーザーのリモート ID
<i>last_modification_time</i>	datetime	Fixlet の最終変更時刻。

Table 13. datasource_fixlets

datasource_fixlets テーブルには、すべてのデータ・ソースのすべてのコンテンツが表示されます。これらは、リンクされていないフラット化されたコンテンツ・オブジェクトであり、このテーブル内にグローバルな表現はありません。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>valid_from</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW START NOT NULL	最新の ETL のタイムスタンプ
<i>valid_to</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW END NOT NULL	行の有効期限を示すタイムスタンプ

Table 14. datasource_groups

datasource_groups テーブルには、すべてのデータ・ソース・コンピューターグループのリストが含まれています。これらは、リンクされていないフラット化されたコンテンツの結果です。このテーブル内にグローバルな表現はありません。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1, 1)	データソースのグループ ID
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	dbo.datasources ID
<i>datasource_site_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.datasource_sites ID
<i>remote_id</i>	bigint NOT NULL	リモート・グループ ID
<i>name</i>	nvarchar(512) NOT NULL	グループ名
<i>type</i>	tinyint NOT NULL	グループ・タイプ。値: 0 - 手動 1 - 自動
<i>is_client_evaluated</i>	bit NOT NULL CONSTRAINT "DF_9878d124eced91430318722648b" DEFAULT 0	このグループのメンバーであることをクライアントが評価したかどうか。自動グループは常に 1。手動グループは、グループが「クライアント設定により決

Table 14. datasource_groups

datasource_groups テーブルには、すべてのデータ・ソース・コンピューターグループのリストが含まれています。これらは、リンクされていないフラット化されたコンテンツの結果です。このテーブル内にグローバルな表現はありません。

(continued)

名前	タイプ	説明
		定」された場合に 1 となります。
<i>creator_id</i>	int NOT NULL	このグループを作成したユーザー (いる場合)。
<i>creation_time</i>	datetime2	作成時刻。形式: unix エポック・タイムスタンプ (UTC)
<i>deleted</i>	bit NOT NULL CONSTRAINT "DF_c3d-b464e009de0643d2455c0f99" DEFAULT 0	コンテンツが削除されているかどうか
<i>valid_from</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW START NOT NULL	最新の ETL のタイムスタンプ
<i>valid_to</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW END NOT NULL	行の有効期限を示すタイムスタンプ

Table 15. datasource_property_map

この **datasource_property_map** 表には、すべてのデプロイメントにおけるすべてのプロパティーが含まれています。データは、[BFInsights].datasource_actionsite_properties、[BFInsights].datasource_analysis_properties、**[BFInsights].datasource_analyses** から取得されます。これは一時テーブルで、ディメンション・テーブル **[BFInsights].[device_dimensions]** を生成するために使用されます。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1, 1)	データソース・プロパティー・マップ ID
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	dbo.datasources ID
<i>datasource_site_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.datasource_sites ID

Table 15. datasource_property_map

この *datasource_property_map* 表には、すべてのデプロイメントにおけるすべてのプロパティーが含まれています。データは、[BFInsights].datasource_actionsite_properties、[BFInsights].datasource_analysis_properties、*[BFInsights].datasource_analyses* から取得されます。これは一時テーブルで、ディメンション・テーブル *[BFInsights].[device_dimensions]* を生成するために使用されます。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>remote_content_id</i>	bigint NOT NULL	リモート・コンテンツ ID
<i>remote_property_id</i>	bigint NOT NULL	リモート・プロパティー ID
<i>name</i>	nvarchar(512) NOT NULL	プロパティーの名前
<i>type</i>	tinyint	<p>プロパティー・タイプ。値は以下のいずれかです。</p> <p>0 - 予約済み。これは事前定義された読み取り専用のプロパティーです。</p> <p>1 - デフォルト。これは事前定義された編集可能なプロパティーです。</p> <p>2 - カスタム。これはユーザーが作成したプロパティーです。</p> <p>関連度: カスタム・フラグ、デフォルト・フラグ、予約済みフラグ</p>
<i>deleted</i>	bit NOT NULL	プロパティーが削除されているかどうか
<i>valid_from</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW START NOT NULL	最新の ETL のタイムスタンプ
<i>valid_to</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW END NOT NULL	行の有効期限を示すタイムスタンプ

Table 16. datasource_property_results

datasource_property_results テーブルには、すべてのデプロイメントにおけるすべてのプロパティ値の完全なリストが含まれています。これは一時テーブルで、**[BFInsights].device_dimensions** テーブルを生成するために **webui** で使用されます。

ViewState に情報を格納するには: 値は、**QUESTIONRESULTS** と **LONGQUESTIONRESULTS** から取得されますが、それは次の場合に限りです。

- 有効な **WebUISiteID** が存在する (**NOT NULL**)。
- プロパティのタイプは、既定値 (**0**) 予約済み (**1**) のいずれか


名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1, 1)	データソース・ プロパティ ID
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	dbo.datasources ID
<i>remote_device_id</i>	bigint NOT NULL	リモート・ デバイス ID
<i>remote_site_id</i>	bigint NOT NULL	リモート・ サイト ID
<i>remote_content_id</i>	bigint NOT NULL	リモート・ コンテンツ ID
<i>remote_property_id</i>	bigint NOT NULL	リモート・ プロパティ ID
<i>value</i>	nvarchar(4000)	プロパティ値。 <div>  Note: この値は NULL 可能です。 </div>

Table 17. datasource_sequences

datasource_sequences テーブルは、ETL が実行されたすべてのテーブルのシーケンス範囲を追跡します。ETL が開始されると、BigFix **Enterprise DB** の最新のシーケンスを記録して、ここに表示し、次に **ETL** が実行されると、ETL でシーケンスが開始されます。

名前	タイプ	説明
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	dbo.datasources ID

Table 17. datasource_sequences

datasource_sequences テーブルは、ETL が実行されたすべてのテーブルのシーケンス範囲を追跡します。ETL が開始されると、BigFix **Enterprise DB** の最新のシーケンスを記録して、ここに表示し、次に **ETL** が実行されると、ETL でシーケンスが開始されます。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>entity_name</i>	nvarchar(128) NOT NULL	トラッキングされているエンティティの名前
<i>last_sequence</i>	binary(8) NOT NULL CONSTRAINT "DF_1db-b74c62a71e48bed0b4d1eb9e" DEFAULT 0	エンティティにプルされた最後のシーケンス

Table 18. datasource_sites

datasource_sites テーブルには、各データ・ソースから **ETL** が実行されたサイトのリストが格納されます。データは、BigFix **Enterprise** の **dbo.SITES** テーブルから取得されます。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1, 1)	Insights DB 内でのサイトの識別に使用するデータソース・サイト ID、プライマリー・キー。
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	サイト取り込み元の dbo.data-sources ID、データソース ID。
<i>remote_id</i>	bigint NOT NULL	リモート・サイト ID であり、BigFix Enterprise DB 内の SiteID を参照します。
<i>name</i>	nvarchar(512) NOT NULL	サイト名であり、BigFix Enterprise DB 内の名前列を参照します。
<i>display_name</i>	nvarchar(512)	サイトの表示名、オプション、サイトの表示名
<i>url</i>	nvarchar(1024) NOT NULL	サイトの収集 URL。
<i>version</i>	int NOT NULL	サイトのバージョン。

Table 18. datasource_sites

datasource_sites テーブルには、各データ・ソースから **ETL** が実行されたサイトのリストが格納されます。データは、BigFix **Enterprise** の **dbo.SITES** テーブルから取得されます。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>type</i>	tinyint NOT NULL	サイト・タイプ。値は以下のいずれかです。 0 - 外部 1 - ActionSite 2 - カスタム 3 - オペレーター 関連度: type
<i>is_excluded</i>	bit NOT NULL CONSTRAINT "DF_10df8b1811fbc-c64562a31ae28d" DEFAULT 0	サイトが ETL から除外されているかどうか (etl_sites is_excluded 列で設定)。
<i>deleted</i>	bit NOT NULL CONSTRAINT "DF_042faf76cefd84e084362635e2" DEFAULT 0	サイトが削除されているかどうか
<i>valid_from</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW START NOT NULL	最新の ETL のタイムスタンプ
<i>valid_to</i>	datetime2 (2) GENERATED ALWAYS AS ROW END NOT NULL	行の有効期限を示すタイムスタンプ

Table 19. datasources

datasources テーブルは、ETL の設定時にユーザーによって追加されたすべてのデータ・ソースを表します。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	int NOT NULL IDENTITY(1, 1)	データソース ID

Table 19. datasources

datasources テーブルは、ETL の設定時にユーザーによって追加されたすべてのデータ・ソースを表します。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>name</i>	uniqueidentifier NOT NULL DEFAULT NEWSEQUENTIALID()	データソースの UUID
<i>excluded</i>	bit NOT NULL CONSTRAINT "DF_8baa2c7f1a5bacdff54a25e37fb" DEFAULT 0	データソースが ETL から除外されているかどうか。形式: ブール値。
<i>version</i>	nvarchar(32)	データソースのバージョン。
<i>user_alias</i>	nvarchar(128)	ユーザーによって割り当てられたデータソースの別名。
<i>last_modified</i>	datetime2 NOT NULL CONSTRAINT "DF_749648a827211eafdf548bfcc6a" DEFAULT GETUTCDATE()	最後にデータソースが変更された時刻。
<i>bes_database_id</i>	int NOT NULL	bes database_datasource ID。

Table 20. etl_metrics

etl_metrics テーブルは、発生する **ETL** に関する基本的なメトリック情報を示しています。目的: フロントエンド **WebUI** アプリは、ユーザーにデータを公開します。

**Note:**

タイムスタンプは、Insights **SQL** サーバーから **dbo.get_time()** を介して生成されます。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1,1)	固有 ID
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	ETL データソース ID
<i>start_time</i>	datetime	ETL の開始時刻

Table 20. etl_metrics

etl_metrics テーブルは、発生する **ETL** に関する基本的なメトリック情報を示しています。目的: フロントエンド **WebUI** アプリは、ユーザーにデータを公開します。

**Note:**

タイムスタンプは、Insights **SQL** サーバーから *dbo.get_time()* を介して生成されます。

(continued)


名前	タイプ	説明
		<div> Note: これはおおよその時刻であり、ETL_TIMES での検索結果とわずかに異なります。</div>
<i>end_time</i>	datetime	ETL の終了時刻
<i>duration_ms</i>	bigint DEFAULT 0	ETL の所要時間 (ミリ秒)
<i>status</i>	tinint	ETL のステータス。値は以下のいずれかです。 0 - RUNNING 1 - SUCCESS 2 - FAILED
<i>preflights</i>	varchar(max)	ETL の実行前に収集されたプリフライト・データ

Table 21. etl_sites

etl_sites テーブルには、すべてのデータ・ソースのすべてのサイトが含まれ、webui フロントエンドの状態マネージャーの役割を果たし、ユーザーの選択に基づいて特定のサイトが「除外」または「プライマリー」であるかどうかを通知します。

定義:

*"除外": **BigFix** サイトは、WebUI フロントエンドで適切な選択を行った場合、除外されていると見なされます。除外されたサイトのコンテンツは取り出されなくなり、データベース内の既存のコンテンツは失効状態になります。つまり、ETL を実行した後にサイトを除外することにした場合、そのサイト内のコンテンツに対する今後の更新は取得されず、失効状態のコンテンツが表示されることになります。

*"プライマリー": ユーザーがサイトをプライマリーにすることを選択した場合、または **WebUI** データ・ソースのインポート・プロセスを通じてこのサイトが初めてインポートされた場合、BigFix サイトはプライマリーと見なされます。プライマリー・フラグは、データ・ソースのインポート時に設定されます。BFInsights 内に複数のデータ・ソースが存在する場合、ETL 後に **[BFInsights].Global** エンティティ (global_fixlets、global_analyses、global_site) が更新される際には、これらに通知するためにプライマリー・サイトが使用されます。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint not null identity(1, 1)	ETL サイトの ID。
<i>datasource_id</i>	int not null	dbo.datasources ID。
<i>remote_site_id</i>	bigint not null	リモート・サイト ID。
<i>name</i>	nvarchar(512) not null	サイトのマストヘッドの名前
<i>display_name</i>	nvarchar(512)	伝播されたサイトの表示名。
<i>type</i>	tinyint not null	サイト・タイプ。値は以下のいずれかです。 0 - 外部 1 - ActionSite 2 - カスタム 3 - オペレーター

Table 21. etl_sites

etl_sites テーブルには、すべてのデータ・ソースのすべてのサイトが含まれ、webui フロントエンドの状態マネージャーの役割を果たし、ユーザーの選択に基づいて特定のサイトが「除外」または「プライマリー」であるかどうかを通知します。

定義:

*"除外": **BigFix** サイトは、WebUI フロントエンドで適切な選択を行った場合、除外されていると見なされます。除外されたサイトのコンテンツは取り出されなくなり、データベース内の既存のコンテンツは失効状態になります。つまり、ETL を実行した後にサイトを除外することにした場合、そのサイト内のコンテンツに対する今後の更新は取得されず、失効状態のコンテンツが表示されることになります。

*"プライマリー": ユーザーがサイトをプライマリーにすることを選択した場合、または **WebUI** データ・ソースのインポート・プロセスを通じてこのサイトが初めてインポートされた場合、BigFix サイトはプライマリーと見なされます。プライマリー・フラグは、データ・ソースのインポート時に設定されます。BFInsights 内に複数のデータ・ソースが存在する場合、ETL 後に **[BFInsights].Global** エンティティ (global_fixlets、global_analyses、global_site) が更新される際には、これらに通知するためにプライマリー・サイトが使用されます。

(continued)

名前	タイプ	説明
		関連度: type
<i>url</i>	nvarchar(512)	サイトの収集 URL。
<i>device_count</i>	int not null	サイトにサブスクライブ済みのデバイス数
<i>content_count</i>	int not null	サイトに関連するコンテンツの数
<i>is_excluded</i>	bit not null constraint "DF_cbe84844d-c63d312aac5d151072" default 0	サイトが ETL から除外されているかどうか。
<i>is_primary</i>	bit not null	サイトが、全データソースの全類似サイトのプライマリー・サイトであるかどうか。

Table 21. etl_sites

etl_sites テーブルには、すべてのデータ・ソースのすべてのサイトが含まれ、webui フロントエンドの状態マネージャーの役割を果たし、ユーザーの選択に基づいて特定のサイトが「除外」または「プライマリー」であるかどうかを通知します。

定義:

*"除外": **BigFix** サイトは、WebUI フロントエンドで適切な選択を行った場合、除外されていると見なされます。除外されたサイトのコンテンツは取り出されなくなり、データベース内の既存のコンテンツは失効状態になります。つまり、ETL を実行した後にサイトを除外することにした場合、そのサイト内のコンテンツに対する今後の更新は取得されず、失効状態のコンテンツが表示されることになります。

*"プライマリー": ユーザーがサイトをプライマリーにすることを選択した場合、または **WebUI** データ・ソースのインポート・プロセスを通じてこのサイトが初めてインポートされた場合、BigFix サイトはプライマリーと見なされます。プライマリー・フラグは、データ・ソースのインポート時に設定されます。BFInsights 内に複数のデータ・ソースが存在する場合、ETL 後に **[BFInsights].Global** エンティティ (global_fixlets、global_analyses、global_site) が更新される際には、これらに通知するためにプライマリー・サイトが使用されます。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>deleted</i>	bit not null constraint "DF_-2a71f0da409e899e54c3c7dd3cf" default 0	サイトが削除されているかどうか。
<i>link_user_alias</i>	nvarchar(128)	サイトがプライマリー・サイトである場合、リンクされた全項目のグループの別名。
<i>link_updated</i>	datetime	サイトがプライマリー・サイトである場合、リンクされた項目グループのメタデータの最終変更日時。
<i>version</i>	int not null	データソースのサイトのバージョン

Table 22. etl_times

etl_sites テーブルは、SCD の **ETL** の開始時刻と妥当性を追跡します。内部テーブルはレポートに使用しないでください。time_dimensions テーブルを使用してください。

名前	タイプ	説明
<i>start_time</i>	datetime2 NOT NULL	ETL の開始時刻
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	データソース ID
<i>valid_to</i>	datetime2 NOT NULL	サイトの名前。

Table 23. global_analyses

global_analyses テーブルには、解析オブジェクトのグローバル表現がリストされます。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint IDENTITY(1,1) NOT NULL	グローバル分析 ID
<i>datasource_analyses_remote_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.datasource_analyses の remote_id
<i>global_site_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.global_sites ID
<i>datasource_analyses_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.datasource_analyses ID
<i>name</i>	nvarchar(512) NOT NULL	グローバル分析の名前
<i>user modified</i>	bit NOT NULL CONSTRAINT "DF_d0c00b9a184f80a8ae481c357cd" DEFAULT 0	分析がユーザーによって変更されたかどうか
<i>deleted</i>	bit NOT NULL CONSTRAINT "DF_9c98cb597a5aade71b3f2ee5983" DEFAULT 0	分析が削除されているかどうか

Table 24. global_analyses_associations

global_analyses_associations は、dbo.global_analyses オブジェクトと *dbo.datasource_analyses* オブジェクトと一緒にマップします。1つのグローバル分析に、複数のデータ・ソース分析が関連付けられている場合があります。

名前	タイプ	説明
<i>global_analyses_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.global_analyses.id を参照します
<i>datasource_analyses_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.datasource_analyses.id を参照します
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	datasource_analysis が属するデータソースの ID。特定のデータソースと結合しやすくします
<i>deleted</i>	bit NOT NULL	datasource_analysis オブジェクトまたは global_analysis オブジェクトが削除されているかどうか

Table 25. global_fixlet_associations

global_fixlet_associations テーブルは、データ・ソースの *Fixlet* とグローバル *Fixlet* テーブルのマッピングを追跡します。1つのグローバル *Fixlet* に複数のデータ・ソース *Fixlet* を関連付けることができます。これは、dbo.datasource_fixlets テーブルで *PK* を参照するデータ・ソース *Fixlet* の「id」に基づいて行われます。データ・ソース *Fixlet* の「remote_id」列は、external_fixlets テーブルおよび *custom_fixlets* テーブルで *BigFix Enterprise* データベースの *ContentID* 列を参照します。

名前	タイプ	説明
<i>global_fixlet_id</i>	bigint not null	グローバル Fixlet の ID。dbo.global_fixlets ID 列を参照します
<i>datasource_fixlet_id</i>	bigint not null	データ・ソース Fixlet の ID。dbo.datasource_fixlets ID column を参照します
<i>datasource_id</i>	int not null	グローバル・コンテンツが属するデータ・ソースの ID。特定の

Table 25. global_fixlet_associations

global_fixlet_associations テーブルは、データ・ソースの *Fixlet* とグローバル *Fixlet* テーブルのマッピングを追跡します。1 つのグローバル *Fixlet* に複数のデータ・ソース *Fixlet* を関連付けることができます。これは、dbo.datasource_fixlets テーブルで *PK* を参照するデータ・ソース *Fixlet* の「id」に基づいて行われます。データ・ソース *Fixlet* の「remote_id」列は、external_fixlets テーブルおよび *custom_fixlets* テーブルで *BigFix Enterprise* データベースの *ContentID* 列を参照します。

(continued)

名前	タイプ	説明
		データ・ソースとの結合を容易にします
<i>deleted</i>	bit not null	datasource_fixlet オブジェクトまたは global_fixlet オブジェクトが削除されているかどうか

Table 26. global_site_associations

global site association テーブルは、データ・ソース・サイトとグローバル・サイトのマッピングを追跡します。1 つのグローバル・サイトに複数のデータ・ソース・サイトを関連付けることができます。これは、Datasource *site* テーブルで *PK* を参照するデータ・ソース・サイトの「id」に基づいて行われます。データ・ソース・サイトの *remote_id* 列は、BigFix *Enterprise* データベースのサイト *ID* 列を参照します。

名前	タイプ	説明
<i>global_site_id</i>	bigint not null	グローバル・サイト ID。dbo.global_sites table ID 列を参照します
<i>datasource_site_id</i>	bigint not null	データ・ソース・サイト ID。datasource_sites テーブルを参照します
<i>datasource_id</i>	int not null	データソース ID
<i>deleted</i>	bit not null	特定のグローバル・サイトが削除されているかどうか

Table 27. global_site_metadata

global_site_metadata テーブルは、ユーザー設定フィールドをグローバル・サイトに関連付けることができます。*global_site_metadata* は *global_site_id* を使用して *dbo.global_sites* を参照します。すべてのフィールドはユーザーが変更可能です。

名前	タイプ	説明
<i>global_site_id</i>	bigint not null	グローバル・サイト ID。グローバル・サイトと 1 対 1 の関係にあります
<i>configuration</i>	nvarchar(128) null	ユーザー定義のカスタム・フィールド。
<i>release_version</i>	nvarchar(128) null	ユーザー定義のカスタム・フィールド。
<i>vendor</i>	nvarchar(128) null	ユーザー定義のカスタム・フィールド。
<i>description</i>	nvarchar(512) null	ユーザー定義のカスタム・フィールド。
<i>updated_at</i>	datetime2(0) not null	更新によりトリガーされます。 sbo.get_date() 関数を設定します

Table 28. global_sites

サイトのグローバル表現。グローバル・サイトは、レポートのために複数のデータ・ソースから外部サイトを結合することができる外部サイト・オブジェクトを表します。リンケージは *dbo.global_site_associations* テーブルを通して機能します。鍵となるのは、データ・ソース・サイトを *BigFix Enterprise* サイト・オブジェクトにリンクする *datasource_sites* の「remote_id」列です。すべての外部サイトには同じ「remote_id」があります。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1, 1)	デプロイメント内のグローバル・サイトを識別するグローバル・サイト ID のプライマリー・キー。

Table 28. global_sites

サイトのグローバル表現。グローバル・サイトは、レポートのために複数のデータ・ソースから外部サイトを結合することができる外部サイト・オブジェクトを表します。リンケージは **dbo.global_site_associations** テーブルを通して機能します。鍵となるのは、データ・ソース・サイトを **BigFix Enterprise** サイト・オブジェクトにリンクする **datasource_sites** の「remote_id」列です。すべての外部サイトには同じ「remote_id」があります。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>datasource_site_remote_id</i>	bigint NOT NULL	dbo.datasource_sites リモート・サイト ID。dbo.datasource_sites の remote_id 列を参照します。
<i>name</i>	nvarchar(512) NOT NULL	マスターのマークを付けられた datasource_sites 名の列から取り込まれたサイト名。
<i>display_name</i>	nvarchar(512)	マスターのマークを付けられた datasource_sites 名の列から取り込まれたサイトの表示名。
<i>url</i>	nvarchar(1024) NOT NULL	マスターのマークを付けられた datasource_sites 名の列から取り込まれたサイトの収集 URL。
<i>version</i>	int NOT NULL	サイトのバージョン。
<i>type</i>	tinyint NOT NULL	サイト・タイプ。値: 0 - 外部 1 - ActionSite 2 - カスタム 3 - オペレーター 関連度: type
<i>user_modified</i>	bit NOT NULL CONSTRAINT "DF_e9fc5a1422e7419b6127e015541" DEFAULT 0	サイトがユーザーによって変更されているかどうか。サイトがユーザー変更済みとしてマークを付けられている場合 ETL には

Table 28. global_sites

サイトのグローバル表現。グローバル・サイトは、レポートのために複数のデータ・ソースから外部サイトを結合することができる外部サイト・オブジェクトを表します。リンケージは **dbo.global_site_associations** テーブルを通して機能します。鍵となるのは、データ・ソース・サイトを **BigFix Enterprise** サイト・オブジェクトにリンクする **datasource_sites** の「remote_id」列です。すべての外部サイトには同じ「remote_id」があります。

(continued)

名前	タイプ	説明
		含まれないため、手動で更新する必要があります。
<i>deleted</i>	bit NOT NULL CONSTRAINT "DF_1777d4164442db2017e-f27482e9" DEFAULT 0	サイトが削除されているかどうか。ユーザーのみが削除できます。
<i>updated_at</i>	datetime2 (0)	最終更新を示すタイムスタンプ。

Table 29. staging_fixlet_fields

staging_fixlet_fields テーブルは、BFE **external_fixlet_fields** と **custom_fixlet_fields** から生データをダンプします。ステー징・テーブルとして、**dbo.staging_fixlet_fields** 内のデータは後で **Insights** によって使用されるもので、ユーザーの操作を目的としたものではありません。

名前	タイプ	説明
<i>datasource_fixlet_id</i>	bigint NOT NULL	フィールド・オブジェクトの Fixlet。dbo.datasource_fixlet.id を参照します
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	fixlet のデータソース。dbo.datasource.id を参照します
<i>name</i>	nvarchar(1024) NOT NULL	フィールドの名前。
<i>value</i>	nvarchar(max) NOT NULL	フィールドの値。
<i>deleted</i>	big NOT NULL	フィールドが削除されているかどうか。

Table 30. staging_fixlet_results

staging_fixlet_results テーブルは、BFE *FIXLETRESULTS* テーブルから取得された、ETL が実行されたすべての *BES* データベースのすべての *Fixlet* 結果のリストです。ステージング・テーブルとして、データは他の *Insights* テーブルで使用されるもので、ユーザーの操作を目的としたものではありません。

名前	タイプ	説明
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	dbo.datasources ID。
<i>datasource_site_remote_id</i>	bigint NOT NULL	BFE FIXLETRESULTS WebuiSite-ID 列からプルされたりモート・サイト ID は、dbo.datasource_-site.remote_id を参照するために使用できます。
<i>datasource_device_remote_id</i>	bigint NOT NULL	BFE FIXLETRESULTS ComputerID 列からプルされたりモート・デバイス ID は、dbo.datasource_-device.remote_id を参照するために使用できます。
<i>datasource_content_remote_id</i>	bigint NOT NULL	BFE FIXLETRESULTS ID 列からプルされたりモート・コンテンツ ID。dbo.datasource_fixlets-.remote_id または datasource_-analyses.remote_id を参照するために使用できます。オブジェクトの結果を判別するには、タイプ列を確認する必要があります。
<i>relevant</i>	bit NOT NULL	Fixlet が関連しているかどうかを確認します。
<i>type</i>	tinyint NOT NULL	これは次のどの Fixlet タイプかを示します。 0 - Fixlet 1 - タスク 2 - ベースライン

Table 30. staging_fixlet_results

staging_fixlet_results テーブルは、BFE *FIXLETRESULTS* テーブルから取得された、ETL が実行されたすべての *BES* データベースのすべての *Fixlet* 結果のリストです。ステー징・テーブルとして、データは他の *Insights* テーブルで使用されるもので、ユーザーの操作を目的としたものではありません。

(continued)

名前	タイプ	説明
		3 - 分析 4 - ComputerGroup
<i>first_relevant</i>	datetime	アクションが関連しなかった最初の時間。
<i>last_relevant</i>	datetime	アクションが関連した最後の時間。
<i>last_non_relevant</i>	datetime	アクションが関連しなかった最後の時間。
<i>updated_at</i>	datetime2(2) NOT NULL CONSTRAINT "DF_62411c85e6ff6c0c6ed7a96e3b4" DEFAULT GETUTCDATE()	ETL によってこの行が最後に更新されたときのタイムスタンプ。

Table 31. time_dimensions

time_dimensions テーブルは、BigFix *Enterprise* データベースで実行されたすべてのインポートを追跡します。このテーブルは、時間の経過に伴うデータの一時的ビューを作成するのに役立ちます。過去の特定の時刻のデータを表示するには、「as of <data>」クエリーで *time_dimensions id* 列を使用する必要があります。

名前	タイプ	説明
	datetime2(2) NOT NULL	ETL (インポート) が実行された時間のタイムスタンプの ID。すべての正常なインポートでは、このテーブルにレコードがあります。

Table 31. time_dimensions

time_dimensions テーブルは、BigFix **Enterprise** データベースで実行されたすべてのインポートを追跡します。このテーブルは、時間の経過に伴うデータの一時的ビューを作成するのに役立ちます。過去の特定の時刻のデータを表示するには、「as of <data>」クエリーで *time_dimensions id* 列を使用する必要があります。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>datasource_id</i>	int NOT NULL	dbo.datasources id、インポートが実行されたデータ・ソースの ID。
<i>day_of_week</i>	tinyint NOT NULL	タイム・スライスの曜日を示します。この列では特定の時間フレームを簡単にフィルタリングできます。
<i>day_of_month</i>	tinyint NOT NULL	タイム・スライスの月の日付を示します。
<i>week_of_year</i>	tinyint NOT NULL	タイム・スライスの年の週を示します。
<i>month_of_year</i>	tinyint NOT NULL	タイム・スライスの年の月を示します。
<i>quarter</i>	tinyint NOT NULL	タイム・スライスの四半期を示します。
<i>year</i>	smallint NOT NULL	タイム・スライスの年を示します。

Table 32. activity_history

activity_history テーブルは、アクティビティ・パネルから進行中の状況、イベント、および情報を追跡するために使用されます。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1, 1)	アクティビティ ID。
<i>user_ID</i>	int NOT NULL	ユーザー ID。

Table 32. activity_history

activity_history テーブルは、アクティビティー・パネルから進行中の状況、イベント、および情報を追跡するために使用されます。

(continued)

名前	タイプ	説明
<i>user_name</i>	nvarchar(128) NOT NULL	ユーザー名。
<i>method</i>	nvarchar(128) NOT NULL	実行されたアクション。値: 作成 更新 削除
<i>parent_id</i>	nvarchar(128)	親 ID。
<i>entity_alias</i>	nvarchar(128)	データ・ソース/サーバーの別名。
<i>entity_type</i>	nvarchar(36) NOT NULL	エンティティー・タイプ。値 <ul style="list-style-type: none">• サーバー• データ・ソース• スケジュール• サイト
<i>entity_id</i>	int NOT NULL	エンティティー ID。
<i>description</i>	nvarchar(128)	アクティビティーの説明。

Table 33. webui.etl_schedules

webui.etl_schedules テーブルは、データ・ソースから進行中の **ETL** スケジュールを追跡するために使用されます。

名前	タイプ	説明
<i>id</i>	bigint NOT NULL IDENTITY(1, 1)	アクティビティー ID。
<i>datasource_database_id</i>	int NOT NULL	dbo.datasource_database ID。
<i>time_type</i>	nvarchar(128) NOT NULL	スケジュール済みの期間。値:

Table 33. webui.etl_schedules

webui.etl_schedules テーブルは、データ・ソースから進行中の *ETL* スケジュールを追跡するために使用されます。

(continued)

名前	タイプ	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • 毎日 • 毎週 • 毎月
<i>day_of_week</i>	nvarchar(128)	曜日。値: 月曜日 ~ 金曜日
<i>week_of_month</i>	nvarchar(128)	月の週。値: 1 日 ~ 31 日
<i>day_after</i>	int	<i>day_of_week</i> 後の日数。
<i>hour</i>	int	時。
<i>minute</i>	int	分。
<i>next_etl</i>	nvarchar(36)	次の etl 時間。
<i>etl_status</i>	nvarchar(36)	etl 状況。値: <ul style="list-style-type: none"> • 成功 • 失敗 • 実行

Table 34. device_dimensions

device_dimensions テーブルは、BigFix ドメイン内のスキャンされたデバイスの詳細な属性を示します。

名前	タイプ	説明
<i>datasource_device_id</i>	bigint not null	デバイス ID – <i>datasource_devices</i> を参照します
<i>computer_name</i>	nvarchar(512)	コンピューターの名前
<i>locked</i>	bit not null	ロックされた状況

Table 34. device_dimensions

device_dimensions テーブルは、BigFix ドメイン内のスキャンされたデバイスの詳細な属性を示します。

(continued)

名前	タイプ	説明
		1 - ロック済み 0 - ロックされない
<i>os</i>	nvarchar(512)	オペレーティング・システム
<i>cpu</i>	nvarchar(512)	CPU
<i>relay</i>	nvarchar(512)	リレー
<i>dns_name</i>	nvarchar(4000)	DNS 名
<i>active_directory_path</i>	nvarchar(4000)	AD パス
<i>ip_address</i>	nvarchar(4000)	IP アドレス
<i>ipv6_address</i>	nvarchar(4000)	IPV6 アドレス
<i>agent_version</i>	nvarchar(128)	エージェントのバージョン
<i>device_type</i>	nvarchar(128)	デバイスのタイプ
<i>computer_type</i>	nvarchar(128)	コンピューターのタイプ
<i>user_name</i>	nvarchar(512)	ユーザー名
<i>ram</i>	nvarchar(512)	RAM
<i>subnet_address</i>	nvarchar(4000)	サブネット・アドレス
<i>valid_from</i>	datetime2	有効開始日
<i>valid_to</i>	datetime2	有効終了日
<i>agent_type</i>	nvarchar(128)	エージェント・タイプ
<i>mac_address</i>	nvarchar(512)	MAC アドレス

Table 35. insights_table_metrics

insights_table_metrics テーブルは、Insights データベースへの **ETL** ロード手順の詳細な属性をリストします。

名前	タイプ	説明
<i>etl_metric_id</i>	bigint not null	関連付けられたメトリックの固有 ID。etl_metrics を参照します
<i>datasource_id</i>	int not null	データ・ソース ID
<i>table_name</i>	nvarchar(128)	テーブルの名前
<i>schema_name</i>	nvarchar(128)	スキーマの名前
<i>rows</i>	bigint not null	行数
<i>total_space_mb</i>	decimal(36,2) not null	合計スペース (メガバイト)
<i>used_space_mb</i>	decimal(36,2) not null	使用済み領域 (メガバイト)
<i>unused_space_mb</i>	decimal(36,2) no null	未使用のスペース (メガバイト)

Chapter 12. ベスト・プラクティス

BigFix 10 Insights のベスト・プラクティスの詳細について説明します。

追加したデータの影響を最小限に抑え、ETL プロセスにかかる所要時間を最適化するには、次の一般的なベスト・プラクティスをお勧めします。

- インポートされたサイトの量を減らします (データ・セットごとに提供されているダイアログ)。データの履歴をレポートにしない場合は、データをインサイトにインポートしないようにします。データ・ロードを負荷として捉え、累積したワークロードを常に確認します。
- プライマリー・サイトのデータは、必ず追加した時点から時系列的に保持する必要があります。データは決して削除しないようにします。このため、Insights を設定する際にはどのサイトをインポートするかを規定します。
- ビジネス・オペレーションに応じて ETL 実行を計画します (できる限り少なく設定し、1 日 1 回が最適です)。適切にパフォーマンスと管理の予想のバランスをとります。
- マシンを評価するサイトのサブスクリプションのチェックリストを減らします。

Insights の SQL 構成

構成	説明 \ 理由
SQL Server の照合がすべての BigFix Enterprise データ・ソースと一致することを確認する。	システム内のすべてのデータベースの照合設定が一致している必要があります。SQL Server データベースのデフォルトの照合は SQL_Latin1_General_CP1_CI_AS です。詳しくは、 https://docs.microsoft.com/en-us/sql/relational-databases/collations/set-or-change-the-server-collation?view=sql-server-ver15 を参照してください。
TempDB IO チャンネルは、共有チャンネルではなく、専用チャンネルでなければなりません。	BigFix Insights は TempDB を多用します。他のワークロードから TempDB を分離しようとします。
SQL 内のメモリー制限を正しく構成します。	OS に 8 GB 以上を許容するように SQL メモリーが制限されていることを確認します。これは SQL Server のプロパティ内で構成されます。
すべてのデータ・ファイル・セットを含む SQL ファイルの格納場所を除外するように、ウイルス・スキャナーを構成する	アンチウイルス・ソフトウェアの設定を構成する際には、以下のファイルまたはディレクトリー (該当する場合) をウイルス・スキャンから除外してください。これにより、ファイルのパフォーマンス

構成	説明 \ 理由
	<p>が向上し、SQL Server サービスでファイルを使用する必要がある場合にファイルがロックされなくなります。この除外ルールの設定方法について詳しくは、ウイルス・スキャナーの説明を参照してください。参照:https://support.microsoft.com/en-us/help/309422/choosing-antivirus-software-for-computers-that-run-sql-server</p>
<p>サポートする SQL データ・ファイルに対して、ファイルのインデックス作成やファイル圧縮を使用しないでください。</p>	<p>A/V 除外と同様の理由で、使用中のデータ・ファイルをロックする可能性がある HIPS ベースのアプリケーションやファイルのインデックス作成操作にも同じことを適用します。</p>
<p>最初に Tlog と MDF のサイズをサイズ予測の 80% に設定し、自動拡張を適切に設定します。</p>	<p>提供されるサイジング情報を活用することで、初期データベースのセットアップより前に、MDF および LDF データ・ファイルが最初に確立されます。これにより、システムは初期 ETL 時に自動拡張を最小限に抑えることができます。</p>
<p>SQL データベース・ファイルの自動拡張を、最小数ではなく、実質的な数に設定します。</p>	<p>サポートする DB ファイルは、Insights DB をサポートする SQL 内では非常にサイズが大きくなる可能性があります。システムがサポートするデータ・ファイルを拡張する時間とリソースを最小限に抑えるために、拡張特性をデフォルト値から 2GB 以上の自動拡張、または毎回 10% ずつに変更されるようにします。</p>
<p>ソフト NUMA が配置されていることの確認</p>	<p>Microsoft SQL 2017 および 2019 では、ソフト NUMA 構成をデフォルトで管理する必要があります。この設定がデフォルトから変更されていないか確認してください。詳細については、https://docs.microsoft.com/en-us/sql/database-engine/configure-windows/soft-numa-sql-server?view=sql-server-ver15 を参照してください。</p>

Chapter 13. BigFix Insights のトラブルシューティング

このトピックは、BigFix 10 Insights で発生したさまざまな問題のトラブルシューティングに役立ちます。

アプリのログの場所

BigFix Insights アプリケーションとは、ETL サーバーとして構成されている WebUI サーバーのアプリのことです。そのため、ログはネイティブの WebUI の場所に配置されています。これは通常、次のディレクトリー内に配置する必要があります。

```
<Installation Drive>:\Program Files (x86)\BigFix Enterprise\BES WebUI\WebUI  
\logs
```



Note:

WebUI アプリケーション・ログは、代替ディレクトリーに格納するように構成されています。WebUI アプリケーション・ログが代替ディレクトリー内に配置されるように構成されている場合、BigFix Insights アプリケーション・ログは代替ディレクトリーに配置されます。

BigFix Insights はログ・ディレクトリー内のログを保持します。アプリケーション名は Insights です。したがって、ログはこのディレクトリー内で `insights.log` と呼ばれます。ログは、ログ・イベントが拡張するにつれて丸められるように構成されます。ログ・セットの合計サイズによっては、整数表現 (`insights.log.1`、`insights.log.2` など) 内にサフィックスの付いたログ・ファイルが表示されることがあります。ログ・ファイルを評価する際には、ログがロールフォワードされるため、ファイルの修正時間に注意してください。

詳細なロギング

詳細なロギングを有効にするには、[WebUI 設定](#) `_WebUI_Logging_Filter` を変更して、`bf:insights*` (アスタリスクを含む) を含める必要があります。変更を反映するため、アプリケーションまたは WebUI サービスを再起動する必要があります。このログ出力は非常に大きいため、デバッグ・セッションが終了したら、設定を以前の値に戻すことをお勧めします。

Insights アプリケーションのログ出力は冗長になります。



Note:

ETL ログは、メインの Insights アプリのログと同じログ・ファイルに含まれるようになります。bf:insights-ETL というプレフィックスが付いています。

対象の SQL テーブル

ETL_Metrics

BigFix Insights 実行中の ETL と完了した ETL のすべてのテーブル・ ログを保持します。このデータは、*ETL_Metrics* テーブル内でキャプチャーされます。このテーブルは、手動で変更または修正しないでください。このテーブルは、Insights SQL Server データベースの *ETL_Metrics* テーブル内に配置できます。次の SQL クエリを使用して、このテーブルから情報を選択できます。

```
SELECT TOP 1000 [id]
      ,[datasource_id]
      ,[start_time]
      ,[end_time]
      ,[duration_ms]
      ,[status]
      ,[detail_log]
      ,[preflights]
FROM dbo.[etl_metrics]
```

ETL_Metrics テーブルには、各データ・ソースの各 ETL が記載されており、指定された ETL のメトリックを表す `detail_log` 列が保持されています。列の値は JSON 値として構造化されます。次に、ETL ごとに書き込まれる JSON 値の例を示します。

```
{ "step1": { "entity": "DatasourcePropertyResult", "startSequence": "0x000000001fc08879",
"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:19.463Z",
"endTime": "2020-03-28T18:26:20.363Z", "durationMs": 900 },
"step2": { "entity": "ActionStateString", "startSequence": "0x000000001fc08879",
"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:20.376Z",
"endTime": "2020-03-28T18:26:20.503Z", "durationMs": 127 },
"step3": { "entity": "DatasourceSite", "startSequence": "0x000000001fc08879",
"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:20.516Z",
"endTime": "2020-03-28T18:26:20.743Z", "durationMs": 227 },
"step4": { "entity": "DatasourceActionsiteProperty", "startSequence": "0x000000001fc08879",
"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:20.743Z",
"endTime": "2020-03-28T18:26:20.870Z", "durationMs": 127 },
"step5": { "entity": "DatasourceDevice", "startSequence": "0x000000001fc08879",
"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:20.980Z",
"endTime": "2020-03-28T18:26:21.103Z", "durationMs": 123 },
"step6": { "entity": "DatasourceFixlet", "startSequence": "0x000000001fc08879",
"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:21.103Z",
```

```

"endTime": "2020-03-28T18:26:24.896Z", "durationMs": 3793},

"step7": { "entity": "DatasourceAnalysis", "startSequence": "0x000000001fc08879",

"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:24.910Z",

"endTime": "2020-03-28T18:26:25.053Z", "durationMs": 143},

"step8": { "entity": "DatasourceAnalysisProperty", "startSequence": "0x000000001fc08879",

"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:25.053Z",

"endTime": "2020-03-28T18:26:25.210Z", "durationMs": 157},

"step9": { "entity": "DatasourceAction", "startSequence": "0x000000001fc08879",

"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:25.223Z",

"endTime": "2020-03-28T18:26:25.633Z", "durationMs": 410},

"step10": { "entity": "DatasourceGroup", "startSequence": "0x000000001fc08879",

"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:25.633Z",

"endTime": "2020-03-28T18:26:25.693Z", "durationMs": 60},

"step11": { "entity": "DatasourceComputerGroup", "startSequence": "0x000000001fc08879",

"endSequence": "0x000000001fcd3510",

"startTime": "2020-03-28T18:26:25.693Z", "endTime": "2020-03-28T18:26:25.756Z", "durationMs": 63},

"step12": { "entity": "DatasourcePropertyMap", "startSequence": "0x000000001fc08879",

"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:25.773Z",

"endTime": "2020-03-28T18:26:25.900Z", "durationMs": 127},

"step13": { "entity": "StagingFixletField", "startSequence": "0x000000001fc08879",

"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:25.913Z",

"endTime": "2020-03-28T18:26:27.510Z", "durationMs": 1597},

"step14": { "entity": "StagingFixletResult", "startSequence": "0x000000001fc08879",

"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:27.526Z",

"endTime": "2020-03-28T18:26:27.590Z", "durationMs": 64},

"step15": { "entity": "DatasourceActionResult", "startSequence": "0x000000001fc08879",

"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:27.590Z",

"endTime": "2020-03-28T18:26:27.763Z", "durationMs": 173},

"step16": { "entity": "ContentResult", "startSequence": "0x000000001fc08879",

"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:27.780Z",

"endTime": "2020-03-28T18:26:28.030Z", "durationMs": 250}}

```

ログは JSON ビューアーで簡単に表示できます (複数のアプリケーションをオンラインで取得できます)。JSON は変数の配列として構造化され、1 つのステップは配列内の変数になります。配列内の特定のステップ変数の例は次のとおりです。

```
{ "step1": { "entity": "DatasourcePropertyResult", "startSequence": "0x000000001fc08879",
"endSequence": "0x000000001fcd3510", "startTime": "2020-03-28T18:26:19.463Z",
"endTime": "2020-03-28T18:26:20.363Z", "durationMs": 900 }, "
```

上記の例は、ステップ 1 が *DatasourcePropertyResult* ステップであることを示しています。ETL はシーケンス `0x000000001fc08879` から取り込まれるように構成され、シーケンス `0x000000001fcd3510` で終了しました。ステップは 2020-03-28T18:26:19.463Z で始まり、2020-03-28T18:26:20.363Z で終了しました。この合計持続時間は、900 ミリ秒 (つまり 0.9 秒) です。同じ原理を使用して、結果のログ値全体を分析します。結果を理解することで、進行中の ETL 操作に関する何らかの情報が得られます。シーケンスの開始と終了の範囲は、ステップ内で取得されたデータを示します。シーケンスは、取り込み中の BFE サーバー内で記録され、何かが変更されたかどうかを識別するための手段となるため、インポートする必要があります。開始と終了の範囲のシーケンスが同じ値の場合、取り込みの結果として得られる BFE データベース内で何も変更が行われていないことを示します。

問題と考えられる修復方法

Table 36. 問題と考えられる修復方法

問題または問題点	一連の行動
Insights DBMS のデプロイに関する問題	Insights のセットアップで提供されたユーザー資格情報に、Insights SQL Server 上にターゲット DB を作成するための適切な許可があることを確認します。適切なターゲットの Insights SQL Server が、指定されたポートを介してアクセス可能であることを確認します (ポートが指定されていない場合は、ポート 1433 が使用されます)。簡単な検証方法として、Insights DB サーバー上の SQL ログを確認して、接続が確立されているか、および認証が行われているかを確認します (SQL Server は、ログインの成功と失敗を監査するように構成できます)。
特定のデータ・ソースのデータが更新されない	Insights ライブ BigFix Enterprise サーバーのホストされたレプリカであるデータベース・ターゲットから取り込みます。レプリカが最新のデータセットで更新されたことを確認します (バックアップまたはレプリケーションなどによって)。 <i>ETL_Metrics</i> テーブルを簡単に調べると、取り込みのターゲットでデータが変更されたかどうかを確認

Table 36. 問題と考えられる修復方法 (continued)

問題または問題点	一連の行動
	<p>できます。ETL_Metrics テーブルでは、すべての ETL がすべてのデータ・ソースに記録されます。前述のセクションでは、そのテーブル内のデータを解釈する方法を説明しています。前の成功した実行ステップと最新のステップ・シーケンス ID を比較すると、データが基礎となるデータベースで実際に進化したかどうかを確認できます。データが変更されている場合、Insights はデータ・ソースから取り込み、ETL ログを確認して、ETL が正常に完了したことを確認する必要があります。ETL が繰り返し正常に完了しない場合は、サポートに連絡してください。</p>
データ・ソースを削除できない	<p>BigFix Insights には、プライマリー・リンク項目の概念があります。プライマリー・リンク項目は、外部サイトを取り込むことを選択したときに割り当てられます。BigFix Insights では、指定されたサイトのプライマリーとして関連付けられているデータ・ソースをユーザーが削除することはできません。指定されたサイトのプライマリーは、データ・ソースを削除する前に、まず別のデータ・ソースに再割り当てする必要があります。</p>
データ・ソースに接続できない	<p>Insights 対応するデータ・ソースから情報を取得します。提供されたユーザー資格情報が正しいこと、およびターゲット・データ・ソース DB から読み取るための適切な許可があることを確認します。適切なターゲット・データ・ソースの SQL Server が、指定されたポートを介してアクセス可能であることを確認します (ポートが指定されていない場合は、ポート 1433 が使用されます)。簡単な検証方法として、データ・ソース DB サーバー上の SQL ログを確認して、接続が確立されているか、および認証が行われているかを確認します。</p>

Table 36. 問題と考えられる修復方法 (continued)

問題または問題点	一連の行動
	(SQL Server は、ログインの成功と失敗を監査するように構成できます)。
Insights での「やりなおし」 - 削除するデータ・ソースがあるため、「新規インストール」に戻る	<p>完全にリセットするには、WebUI の報告先となる BFEnterprise データベースに対して次の照会を実行する必要があります。</p> <pre>delete from [BFEnterprise].[dbo].[webui_data] where App = 'insights'</pre> <p>Insights データベースは削除するか、保持することができます。Insights WebUI アプリケーションに再度アクセスする場合は、既存の Insights データベースに接続するか、新しいデータベースを作成する必要があります。以前の Insights データベースを保持する場合は、新しく作成した Insights データベースに新しい名前を設定します。</p>

Chapter 14. BigFix Insights 変更ログ

このトピックでは、BigFix Insights の変更ログをリストします。

2022 年 1 月リリース – Insights 10.0.8

- さまざまなバグおよび障害を修正
 - 重複キーが可能であった insights_table_metrics テーブルの入力に関する問題を修正
 - 新規エンティティのトラッキング・シーケンスに関する問題を修正
 - 同じ名前の既存のエントリを上書きするカスタム属性の問題を修正
 - etl_metrics に関する問題の修正 - バイナリー形式の列のサポートの追加
 - カスタム・コンテンツで datasource_fixlets が正確に hidden を設定しない問題を修正
- 追加された機能
 - サイトの組み込みが除外から組み込みに変更されたことにより、このデータ・ソースに関連付けられているすべてのエンティティの last_sequence がリセットされるようになりました。
 - 「カスタム属性」ビューに、選択したものだけのフィルターが追加されました。
 - 「カスタム属性」ビューに、ユーザー入力の検証が追加されました。
 - 今後すべてのエラー出力から、機密と考えられるデータが削除されます。
 - datasource_sites に、オペレーター・サイトが含まれるようになりました。
 - [スキーマの変更] device_dimensions に次の列を追加:
 - agent_type
 - [スキーマの変更] datasource_sites に次の列を追加:
 - opsite_datasource_user_id
 - [スキーマの変更] datasource_fixlets に次の列を追加:
 - user_remote_id
 - creation_time
 - last_modification_time
 - [スキーマの変更] 次の新しいエンティティ (テーブル) を追加:
 - datasource_baselines
 - datasource_baseline_action_settings
 - datasource_baseline_action_settings_user_groups
 - datasource_baseline_component_actions
 - datasource_baseline_component_action_successes
 - datasource_baseline_component_groups
 - datasource_baseline_components
 - datasource_baseline_fields
 - datasource_baseline_relevances

- datasource_custom_site_readers
- datasource_custom_site_writers
- datasource_device_baselines
- datasource_external_site_visibilities
- datasource_fixlet_actions
- datasource_content_comments
- datasource_fixlet_relevances
- datasource_role_group_assignments
- datasource_role_site_assignments
- datasource_role_user_assignments
- datasource_roles
- datasource_site_users
- datasource_users
- etl_entity_inclusions

オプションのエンティティを有効にするには、dbo.etl_entity_inclusion テーブルにデータ・ソース ID とエンティティ名を挿入します。datasource_id は dbo.datasources テーブルにあり、各エンティティ名は、insights-etl の src/entity にあります。

例: 以下のスクリプトは、datasource_baselines を有効にします。

```
--Replace ? with the actual datasource id

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceBaseline')
```

特定のデータ・ソースのすべてのオプションのエンティティを有効にするには、以下のスクリプトを使用します。

```
--Replace ? with the actual datasource id

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceBaseline')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceBaselineActionSetting')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceBaselineActionSettingsUserGroup')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceBaselineComponent')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)
```

```

VALUES(?, 'DatasourceBaselineComponentAction')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceBaselineComponentGroup')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceBaselineComponentActionSuccess')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceBaselineField')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceBaselineRelevance')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceCustomSiteReader')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceCustomSiteWriter')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceDeviceBaseline')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceExternalSiteVisibility')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceFixletAction')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceContentComment')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceFixletRelevance')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceRoleGroupAssignment')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceRoleSiteAssignment')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceRoleUserAssignment')

INSERT INTO dbo.etl_entity_inclusions (datasource_id, entity_name)

VALUES(?, 'DatasourceRoleUserAssignment')

```